

巻頭感 私の夢見る図書館像—開かれた図書館をめざして

図書館長 内田慶市

研究者の道を志して以来、世界各地の図書館を渡り歩いてきたが、いつも感じてきたことがある。それは日本あるいは広く東アジアの図書館と欧米の図書館との決定的な違いである。そして最近では、これは実は「東西の文化」や「ものの見方・考え方」の違いではないかと思うようになってきている。それは何かと言えば、とことん「利用者」の側に立ったサービスを心がける図書館と、あくまでも「(図書) 管理者」の側に立ったそれとの違いである。

たとえば、これはこれまでも色んなところで言ってきたことである（「秘蔵は死蔵なり—図書館と文献公開のあり方」『東方』360号、2011.2）が、貴重書（Rare Book、善本書）の取り扱い方である。日本では（我が関西大学でも同様であるが）、大概が予め（1週間ほど前に）閲覧予約・申請をし、館長の決裁がおりて初めて閲覧が可能となる。また、その複製（duplicate）なども結構面倒で、時には許諾されない場合もある。ところが、欧米の図書館では、私は何十年も利用してきているが、そうした経験をしたためしがないのだ。もちろん、閲覧申請が午前だけとか、午後の何時までとか、幾つかの小さな制限はあるのだが、当日行って申請しても殆ど見せてもらえるのである。

貴重書専門のハーバードのホートンライブラリーでも、大英でも、パリ国立図書館でも、オックスフォードのボードレイアンやケンブリッジのワイリーコレクション、ウェードコレクションでも、ローマやナポリ、スペインの国立図書館でもどこでもそうなのである。いつだったか、突然訪れたボードレイアンやウェードコレクションでは書庫まで入れてくれたりした。しかしながら、日本や中国では、まずこうはいかないのである。

この違いは一体何なのか。おそらくそれは、「利用者の便」を最優先するということと、「図書の使命とは何か」に対する考え方の相違である。つまり、欧米では「図書はあくまでも人に読まれるべきもの」という考え方が根本にあるのだと思う。面白いのは、それが「著作権」や「所蔵権」などのいわゆる「知的所有権」に対する意識と反比例しているということである。欧米では、この「知的所有権」には極めて敏感であり、その権利を守ることが最低のモラルとなっている。大いに公開するが、他方、その権利は保証するという一見矛盾する考えが徹底しているのである。これが東アジアになると逆転するのだ。「コピー天国」は必ずしも中国や韓国の専売特許ではなく日本だってその傾向は昔からあるのだ。特に知的所有権についてはその意識は明らかに低いと思われる。大切なものは人にはなるだけ見せず、他人のものは自分のものとして知らぬ顔。東西の図書館の根本的な違いはここに由来すると私は考えている。

しかしながら、情報公開や国際ネットワーク、文献アーカイブス、データベース化はすさまじい勢いで発展しており、もはや「秘蔵」などと言っているような時代ではなくなっているのだ。

隠しておいて何になるのか。紙もいずれは朽ち果てて、結局はその使命を果たさずに終わるのである。「図書館は博物館ではない」というハーバード大学イェンチン図書館のJames Cheng館長の言葉を特に東アジアの図書館関係者は心して聞くべきであるし、電子化が一方では、人類の「知の保存」でもあることを認識すべきなのである。

貴重書の扱い方だけでなく、東アジアの図書館が西に学ぶべきことは他にも沢山ある。WiFiなどの通信インフラやラーニング・コモンズなどは欧米ではもう当たり前。1年365日とは言わないまでも休館日はほとんどなく、しかも夜遅くまで（中には24時間）利用が可能である。バッグを持ったまま書庫に入れ、しかも、そこにはそれぞれに机と椅子が用意されていて、自分が読みたい本もキープしておけるのだ。日本でもそのような図書館がいつの日か出現することを私は夢見ているのである。

すでに予定の紙幅をオーバーしているが、ついでに私が「夢見」していることをもう1点述べておきたい。それは「アジア学研究図書館」の開設である。

関西大学はGCOEや卓越した大学院採択に象徴されるように、東アジア学の研究においては世界をリードする位置にある。それは、東西学術研究所の伝統を受け継ぐものでもあるが、更に、この分野における蔵書において関西大学図書館は世界に誇るべきものを有している。内藤文庫、泊園文庫、長澤文庫、増田文庫、吉田文庫、中村文庫等々の個人文庫はまさに世界中の研究者の垂涎の的となっている。これらの財産を活かすべく、アジア学に特化した「研究図書館」を総合図書館に付設できないかと考えている。そして、「アジア学研究なら関西大学の図書館で」といった、いわゆるアジア学研究の「ハブ図書館」として世界にアピールするのである。そのためには、国際ネットワークの充実が不可欠である。現在、ハーバード大学イェンチン図書館、ルーヴェン大学図書館とはすでに相互利用に関する協定を締結しているが、今後、こうした協定図書館を増やしていきたいと考えている。

(うちだ けいいち 外国語学部教授)

巻頭感 私の夢見る図書館像—開かれた図書館をめざして 内 田 慶 市

書見台

南アフリカの図書館—ローズ大学コーリー図書館を中心に— 北 川 勝 彦 3

虫ぼし抄

平成 23 年度基本図書購入リスト 8

〈図書館自己点検・評価について〉..... 関西大学図書館自己点検・評価委員会 11

図書館談話室

第 73 回（2012 年度）私立大学図書館協会総会・研究大会参加報告 加 藤 博 之 29

第 14 回図書館総合展に参加して 新 谷 大 二 郎 33

図書館活動報告

平成 23 年度図書館活動報告 37

図書館展示会報告 40

図書館出版物案内 42

規程・内規・要領の改正

平成 23 年度に制定及び改正のあった図書館諸規程 43

『図書館フォーラム』投稿要項

編集後記

南アフリカの図書館

—ローズ大学コーリー図書館を中心に—

北川 勝彦

筆者は、本『図書館フォーラム』第15号（2010年）で、「南アフリカの図書館と文書館」と題する一文を寄稿したことがあった。その中で取り上げたのは、ブレントハースト図書館（Brenthurst Library）、スタンダード・バンク文書館（Standard Bank Archives, Standard Bank Heritage Centre）、ケープタウン文書館（Cape Town Archive Repository）、キリー・キャンベル・アフリカーナ図書館（Killey Campbell Africana Library, Campbell Collection）であった。本稿では、昨年（2012年）9月に18世紀と19世紀における南アフリカのプラント・ハンターの調査のために利用した東ケープ州グラハムズタウンにあるローズ大学（Rhodes University）コーリー図書館（Cory Library for Historical Research）について紹介する。本図書館の利用については、同大学歴史学部のポール・メイラム教授（Paul Maylam）をはじめライブラリアンの皆さんの多大なご助力をいただいた。

1 ローズ大学の成り立ち

さて、ローズ大学は、南アフリカ共和国の東ケープ州にあるグラハムズタウンに位置しており、1904年に設立された。グラハムズタウンは、インド洋岸のポートエリザベスの町から車で1時間ほど内陸に入ったところにある。この大学は、東ケープ州の大学のなかでもっとも古い大学であり、南アフリカ国内でもケープタウン大学（1829年設立）、ステレンボッシュ大学（1866年設立）、ウィットウォーターズランド大学（1896年設立）、フリーステート大学（1904年設立）に次いで古い大学である。ローズ大学は、1904年にイギリス帝国建設者として知られたセシル・ローズ（Cecil John Rhodes）にちなんで設立されたローズ・トラスト（Rhodes Trust）の寄付によってローズ・ユニバーシティ・カレッジ（Rhodes University College）として創立された。この大学は、1918年には南アフリカ大学（University

of South Africa）のカレッジとなったが、1951年に独立した大学となっている。

グラハムズタウンに大学を設立する提案書は、アングロ・ボーア戦争の終結した年にあたる1902年に出されたが、東ケープで辺境の戦争が続き、資金難となり、提案は実現しなかった。1904年、リンダー・ジェームソン（Leander Jamson）はローズ財団から大学に5万ポンドの資金を拠出し、この基金でローズ・ユニバーシティ・カレッジが設立されたのは1904年5月31日であった。東ケープにおけ



1898年のハイストリート
(出所 http://en.wikipedia.org/wiki/Rhodes_University)



現在のローズ大学キャンパスの正門（筆者撮影）



正門をくぐりぬけた正面の学舎（筆者撮影）

る大学教育は、四つの学校で始まった。すなわち、セントアンドリュー（St. Andrew's College）、ジル（Gill College, Somerset East）、グラーフ・ライネット（Graaff-Reinet College）、グレイ・インスティテュート（Grey Institute in Port Elizabeth）である。セントアンドリューの4人の教授たち、すなわちアーサー・マッシューズ（Arthur Matthews）、ジョージ・コーリー（George Cory）、スタンレー・キッド（Stanley Kidd）、G. F. ディングスマンズ（G. F. Dingemans）がローズ・ユニバーシティ・カレッジの創立時の教授となった。

1905年、ローズ大学はドロツディ（Drotsdy）の建物に移転し、1918年にローズ大学は新生の南アフリカ大学を構成するカレッジとなっている。第二次世界大戦後の1947年に南アフリカ大学の将来が検討されたときに、その検討過程でローズ大学は独立した大学となった。

かくして、1951年3月10日、ローズ大学は独自の道を歩み始めた。セルマー・シオンランド（Selmar Schonland）の息子であるバジル・シオンランド（Basil Schonland）が初代理事長となり、トーマス・アルティ博士（Thomas Alty）が初代学長となった。アリスに近いフォートヘアのユニバーシティ・カレッジは、私的な取り決めではローズ大学に帰属していた。この互恵的な取り決めは1948年に成立した国民党政府がアパルトヘイトの下でフォートヘアをローズから切り離す決定を下すまで続いた。ローズ大学側はこのような分離政策に対して、また大学教育隔離法にも反対したが、結局は法案が認められ、1959年に両大学の関係は終了した。1963年には、ジェームズ・ヒスロップ（James Hyslop）がアル

ティの後を継いでいる。

2 コーリー図書館とコレクション

コーリー図書館は1931年に創立された。ジョージ・エドワード・コーリー（George Edward Cory）は、ローズ・ユニバーシティ・カレッジの最初の化学の教授であったが、退職時に同大学の図書館に個人のコレクションを寄贈した。コーリー教授は、化学分野での学問的貢献に加えて、南部アフリカ史に強い関心を示し、この分野の熱心な研究者として長年にわたって研究を続けてきた。彼の研究は、『南アフリカの興隆』（*The Rise of South Africa, 1910-1939*）と題する膨大な著作の出版で広く知られている。これに伴って彼は南アフリカ史学史において卓越した地位を得たのである。この研究を遂行するにあたって、コーリー教授は大量の史料を収集しているが、その中には単行本、パンフレット、個人の手稿（日記や手紙類）、写真、地図、新聞などがあり、これらが現在のコーリー図書館の中核を占める史料となった。

コーリー教授のコレクションの中には、彼の書き残した62名の黒人と白人の年長者との「会話」記録が含まれている。これらの会話記録は、広くは南アフリカ全般、個別적으로는東ケープの辺境に関する歴史について知るには重要な史料である。コーリー教授がこうした会話記録を残したのは、個人の記憶が古い建物や古い文書と同じように消滅してしまう



ジョージ・エドワード・コーリー
（出所 <http://www.ru.ac.za/corylibrary>）



コーリー図書館の正面入口（筆者撮影）

ことを懸念していたからであった。しかし、彼は同時に自らの著作の中で使用した史料に歴史研究の新しい源泉を見出したと言える。すなわち、彼らとの会話を記録することで、こうした人々に「声」を与えることができた。そうでなければ、彼らの「声」はコーリー教授の世代以外には聞かれることが決してなかったからである。コーリー教授は偶然オーラル資料の価値に出会ったといえるかもしれないが、彼こそオーラル・ヒストリーの分野において南アフリカのパイオニアの一人といってよいであろう。これらのインタビューはバーニング（J.M.Berning）によって編集され、*The historical “conversations” of Sir George Cory* と題してグラハムズタウンの歴史書シリーズの一冊として出版されている。

ところで、コーリー図書館では、上記のコーリー教授のコレクション以来、東ケープおよびグラハムズタウン自体の史料だけでなく、レソトや広く南部アフリカ史の史料が収集されてきた。その中には、コーサ人に関する史料、ミッションと教会の歴史、教育史、鉱山業史、商業史、農業史の史料が含まれている。これらの詳細は、*Guide to the Cory Library Card Catalogues* に譲る⁽¹⁾。また、コーリー図書館の主要なコレクションとしては、以下のものがある。ラブデールコレクション（Lovedale Collection）、南アフリカメソヂスト教会文書（Methodist Church of South Africa Archives）、南アフリカ金鉱会社コレクション（Gold Fields Collection）、ローズ大学文書（Rhodes University Archives）、ジョージ・コーリー教授スライド（Sir George Cory Slides）、南部アフリカラウンドテーブル協会（Association of Round Tables of Southern Africa）である。以下で

は、このうちラブデールコレクション、南部アフリカメソヂスト教会、南アフリカ金鉱会社の各文書について簡単に紹介しておこう。

(1) ラブデールコレクション（Lovedale Collection）

ラブデールコレクションは、1961年にスコットランド自由教会の宣教協議会（Mission Council of the Free Church of Scotland）によって収蔵されていたものである。このコレクションから、ラブデール出版（Lovedale Press）を含むラブデール宣教協会（Lovedale Mission Institution）の歴史全般を知ることができる。

ラブデール宣教協会は、グラスゴー宣教協会（Glasgow Mission Society）によって1841年にアフリカ人のための高等教育の場として設立された。ラブデールの名称は、グラスゴー宣教協会の初代会長ジョン・ラブデール博士にちなんでつけられたものである⁽²⁾。

ラブデール出版は、1823年にグラスゴー宣教協会のジョン・トス（John Toss）の下でチュミー宣教基地（Chumie Mission）で設立された。この出版社は、1834～35年のフロンティア戦争の最中に破壊された。そこで1839年に第二の出版社が設立されたが、これもWar of the Axe（1846-47）の中で破壊された。今日のラブデール出版は、1861年から再開されたものである。

ラブデール出版は、宣教活動の促進手段として、南アフリカの黒人の教育に向けて一歩踏み出すために設立された。また、この出版社は、南アフリカの黒人作家が自らの著作を刊行するための手段となっただけでなく、アフリカ人の文学作品を印刷出版した先駆者となった。加えて、この出版社は、黒人たちが印刷や製本の技術訓練を受ける場ともなった。

ラブデール出版はキリストの福音と教育の教材を出版することを主たる業務としていた。初期のプロジェクトの一つは、バイブル（聖書）のコーサ語への翻訳であった。この出版社の初期の出版物の中には賛美歌集、学校の読本、他のキリスト教会派の文学が含まれていた。

ラブデール出版のコレクションの中には多くの著名な黒人作家の手稿や作品が含まれている。たとえば、ジョーダン（A. C. Jordan）、ドロモ（H. I. E. Dhlomo）、ジャバブ（D. D. T. Jabavu）、ジョロベ（J. J. R. Jolobe）、ムカイ（S. E. K. Mqhayi）、ンダウォ（H. M. Ndawo）、バニ（A. Z. Hbani）、プラーツェ（S. T. Plaatje）、

シンコ (G. B. Sinxo)、ソガ (T. B. Soga)、スワートボーイ (Victoria Swaartbooi) がいた。

(2) 南アフリカメソヂスト教会文書 (Methodist Church of South Africa Archives)

コーリー図書館は、南部アフリカメソヂスト教会の文書の公式の管理機関になっている。この文書の中には、南部アフリカにおけるメソヂスト教会運動に関連した資料と19世紀初期以降の各種の文書資料が含まれており、手稿類(手紙、日記、会議記録、メモ、新聞切り抜き、スクラップブック、登録簿、財政書類、洗礼ないし個人記録、絵と写真)も多数含まれている。こうした記録に加えて、メソヂスト宣教師個人の日記、他の書類や印刷物がある。たとえば、Wesleyan Missionary Notices, Wesleyan Methodist Missionary Society's Report, British and South African Conference Minutes, South African Christian Watchman が収められている。この文書資料には、ロンドンのメソヂスト宣教協会アーカイブに収蔵されている記録のマイクロフィルム版が含まれている。

このような包括的なコレクションの構築は、南アフリカメソヂスト教会の記録を収集し始めた人物に多くを負っている。すなわち、ウィリアム・イブレイ (William Eveleigh) と彼の後継者たちは、メソヂスト教会の貴重な記録を持続的に収集し、保管してきた。ウィリアム・イブレイの死後、彼が精力的に収集したアフリカーナの資料の散逸が恐れられ、メソヂストの文書館を設立する動機となった。レスリー・ヒューソン教授 (Leslie A. Hewson) は、当時、ローズ大学の新約聖書研究の担当者であり、リビングストンハウス (Livingston House) の管理者であったが、1948年、メソヂスト会議で文書保管担当者として任命された。同年にはメソヂスト歴史協会 (Methodist Historical Society) が設立されている。

このコレクションは、当初、ローズ大学のリビングストンハウスに収蔵されていたが、収書数も増大し効率的な管理が困難になり、1965年にメソヂスト会議はこのコレクションをローズ大学コーリー図書館に移転することを決定した。この移転は、南部アフリカメソヂスト教会とローズ大学の間で調印された合意文書 (Memorandum of Agreement) で公式なものとなり、以後、これに基づいて教会の記録はすべてローズ大学に収められている。現在、

メソヂスト文書館は、大量の包括的なコレクションとなり、これによって南部アフリカのメソヂスト教会の活動と歴史を知ることができる。その網羅する地域は、南アフリカだけでなく、ジンバブウェ、ザンビア、スワジランド、レソト、ボツワナ、ナミビアに至る⁽³⁾。

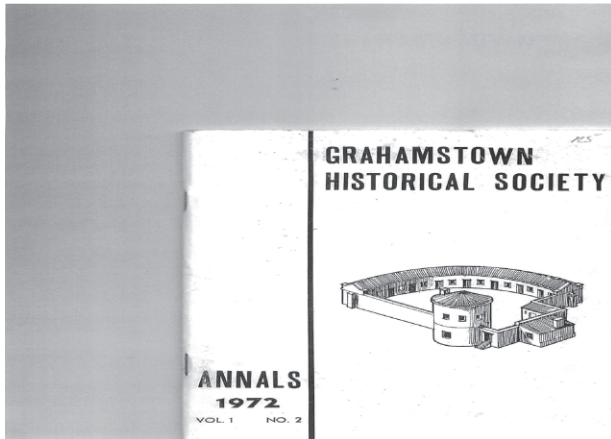
(3) 南アフリカ金鉱会社コレクション (Gold Fields Collection)

このコレクションは、南アフリカ金鉱会社 (Gold Fields of South Africa Ltd.) からコーリー図書館に寄贈されたものである。

この会社に関する文書は、1944年以後、ローズ記念図書館・博物館 (Rhodes Memorial Library and Museum) の中に収集されてきたものであった。この記念図書館・博物館が設立されたのは、同社とその子会社、ローズとラッドとカルデコットのシンジケートの後継企業の歴史をカバーするためであった。とくにセシル・ローズの研究に資するためであった。この文書館の設立は、同社の60周年記念が近づいてきたときにもちあがり、ボーデン (F. C. M. Bawden) 氏自らが、1968年に他界するまで最初から図書館の求めて活動し、金鉱会社とその子会社の記録をまとめコレクションとして構築して、今に至っている。

金鉱会社のコレクションの最初の部分は、1976年に南アフリカ金鉱会社によってコーリー図書館に寄贈された。ローズ大学で収蔵されるコレクションについての最初の交渉は後にローズ大学の理事長となった金鉱会社社長のウィリアム・ジョン・ブショー (William John Busschau) 博士によってはじめられた。その後、新たな資料が時折コーリー図書館に寄贈され、元の資料に加えられていった。この中には、金鉱会社のジンバブウェ (旧ローデシア)、ブラワヨ支店からの文書資料が含まれている。この記録は、1948年にブラワヨ支店が閉鎖されてからコーリー図書館に移管された。それに続いて、金鉱会社の資料の中にはロンドンの統合金鉱会社 (Consolidated Gold Fields) によって保管されていた南アフリカ金鉱会社の南アフリカ側の記録が含まれている。

この金鉱会社資料のコレクションは、文書類、手稿類、地図、計画書、事件記録のメモ、写真、パンフレット、金鉱会社の設立時および初期の時代の関連資料から構成されている。手稿類の中には、金鉱



グラハムズタウン歴史研究会の雑誌

会社とその子会社の歴史、公式記録、ノート、信書控えがあり、私的な通信（ローズ Rhodes, ラッド C. D. Rudd, バーケンルース E. J. Burkenruth, シュライナー Oliver Schreiner, キプリング Rudyard Kipling との手紙のやりとり）がふくまれている。また、膨大な写真（鉱山、設備、工夫、ローズ）がある。書籍のコレクションには、セシル・ローズに関する研究、トランスバール、ジンバブウェ、その他のローズや金鉱会社が関与した地域の歴史書がある⁽⁴⁾。

このように金鉱会社コレクションには、南アフリカ鉱業史、金融史、経済史に関するもっとも完全な手稿類と文書類が残されている。このコレクションは、また、両大戦間期、第2次世界大戦後、をカバーしており、南アフリカ経済に対する不況のインパクトについて洞察をえることができる。

南アフリカには数多くのローカルヒストリーの研究会（上図はグラハムズタウン歴史研究会の雑誌の表紙）だけでなく、各種の文書館や図書館が設置されている。今後、筆者の取り組もうとしている南アフリカの社会経済史の研究においては、これらの図書館や文書館の調査研究が不可欠である。近い将来機会があれば、以下の文書館ないし図書館の調査に当たりたいと考えている。クワズールーナタール州では、クワズールーナタール大学ピーターマリッツバーグ・キャンパスのアラン・パットン・センター（Alan Paton Centre and Struggle Archive）、デビッド・ドン（David Don）のコレクションを収蔵しているドン・アフリカーナ図書館（Don Africana

Library）、ハウテン州ではウィットウォーターズランド大学にあるウイリアム・カレン図書館（William Cullen Library）、東ケープ州では今回の調査で訪問できなかったフォートヘア大学にある解放運動文書館（Liberation Movement Archive）とハワード・ピム稀観本図書館（Howard Pim Library of Rare Books）などである。日本におけるアフリカニスト史家がこれらの南アフリカの史料にアクセスして、優れた研究成果を発表する日も近いであろう。

注

- (1) 主要なカタログとしては、Author/Title catalogue, Subject Catalogue, Manuscript and Document Catalogue, Grahamstown Journal Index, Grocott's Mail Index, Eastern Province Herald, Cape Monthly Magazine, Annals of the Grahamstown Historical Society, Rhodesian Index, Periodical Catalogue, Map Catalogue, Pictorial Catalogue, Eastern District Court and Salem Baptism, Methodist Obituaries, Church Registers, Cory Biographical Notes, Registers of Documentsがある。なお、ケープタウン大学の図書館の手稿および文書部門にはジェームズ・スチュアート文書（The James Stewart Paper）が収蔵されている。この文書は、1979年にラッセル・マーティン（Russell Martin）によって編纂されたものがレノックス・ゴードン（Lennox Gordon）博士とその夫人によってケープタウン大学図書館に寄贈されたものである。
- (2) 設立後の最初の100年間、ラブデール4人の校長（会長）が就任した。William Govan (1841-1870), James Henderson (1906-1930), Arthur West Wilkie (1932-1942), Robert H. W. Shepherd (1942-1944) である。
- (3) 大澤広晃「宣教師と植民地政治批判—19世紀ケープ植民地東部境界地帯におけるウェズリアン・メソヂスト宣教師の動向を中心に—」『歴史学研究』(890) 2012年3月を参照。
- (4) 南アフリカ金鉱会社については、北川勝彦『南部アフリカ社会経済史研究』関西大学出版部、2001年を参照。

（きたがわ かつひこ 経済学部教授）

平成23年度基本図書購入リスト

1 CIS Microfiche Library 2003-2009 【Serial Set, Hearings, CRS Reports, Committee Prints and Senate Executive Documents and Reports】

(米国連邦議会委員会関係資料原報【シリアルセット・公聴会議事録・議会調査局報告書・委員会配布資料・上院機密文書・報告書】)

マイクロフィッシュ版

[米国議会 (U.S. Congress) やその委員会において生み出される膨大な資料群が体系的・網羅的に収録されている一次資料コレクションである。米国議会は単に立法機関であるというばかりでなく、各種テーマについての調査・研究・分析の機関でもあり、本資料は政治、経済、法律、社会、文化の研究者にとっての極めて有効な情報源である。今年度の購入により関西大学図書館の当コレクションの所蔵範囲は1970年から2009年までとなった。]

2 Masculinity, ca. 1560-1918

マイクロフィルム版

[『Masculinity, ca. 1560-1918』は16世紀後半から20世紀初頭までの「男らしさ」をめぐる多様かつ膨大な量にのぼる原資料を復刻した資料である。男性学を中心とするジェンダー／セクシアリティ研究、ゲイ・スタディーズ、さらには中世から近代にかけての西洋社会史、文化史にとって斬新な知見をもたらす資料集であると言える。]

3 Research Collections in Women's Studies

(女性研究資料集)

- 第1部 ラドクリフ大学シュレジンジャー女性資料館 女性研究マニュスクリプト資料
- 第2部 アメリカの女性解放運動 雑誌集成
- 第3部 アメリカの女性参政権・有権者運動資料
- 第4部 アメリカの女性労働問題・福祉問題資料
- 第5部 ローズヴェルト大統領夫人 エレノア・ローズヴェルト資料
- 第6部 女性黒人運動の旗手 エレノアの友人 メアリー・ベスーン資料
- 第7部 『草の根の女性組織』運動記録資料
- 第8部 女性行動同盟 (WAA) 記録資料

マイクロフィルム+マイクロフィッシュ版

[産業社会発展期から現代に至るまでの膨大な女性研究に関する資料が包括的に収められた資料集である。当資料の内容は、女性研究や女性史にとどまらず、歴史研究、政治史、社会政策研究、人権研究、医療、公衆衛生研究、労働研究などの分野においても重要性を持つものである。]



4 Manila Bulletin.

『マニラ・ブレティン』紙

マイクロフィルム版

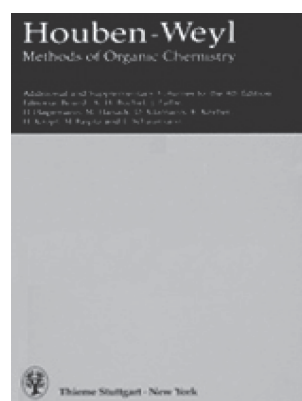
[[マニラ・ブレティン』紙はマルコス独裁政権下の戒厳令時代(1972.9.23～1981.1.17)をも生きた、創刊100年以上の歴史を誇る英字新聞である。今日では最大の発行部数を誇るフィリピンの代表的新聞である本紙は、マルコス独裁政権下と、それ以降のフィリピン研究や東南アジア研究にとって多方面から活用することのできる非常に貴重な資料と言える。]



6 Houben-Weyl Methods of Organic Chemistry.

Vol. E9, E10, E12b, E17

[当資料は、世界的に著名な有機合成研究のレファレンスシリーズである。今回購入したEシリーズ(Erganzungsbande)は、1982年より2003年にかけて第4版の補遺シリーズとして刊行されたものであり、これらの巻では近年特に重要とされる化合物とその効果的な調整方法について詳述されている。国際的に活躍する編集委員により検証・評価・査定された内容は極めて信頼性の高いものであり化学のみならず、材料科学、生命科学、環境科学等の分野の研究者、学生にとっても重要な文献であると言える。]



5 The Art Exhibition Catalogues on Microfiche

(世界の美術展目録)

マイクロフィッシュ版

[[世界の美術展目録』は、世界中の美術館や画廊における3,000種以上の展覧会目録を約5,700枚のマイクロフィッシュにまとめている。その中には、ルネッサンスとバロックなどの大きな主題を扱ったものから、印象派、彫刻、女性美術家など個別のテーマを対象としたものまで、様々なものが含まれている。]

図書館自己点検・評価について

平成23年度

□ 目 次 □

自己点検・評価関係資料

- 1 基礎データ（平成23年度）…………… (1)
- 2 平成23年度図書館自己点検・評価委員会名簿…………… (15)
- 3 関西大学図書館自己点検・評価委員会規程…………… (16)

自己点検・評価関係資料

1 基礎データ（平成 23 年度）

(1) 入館者に関する統計
a 過去5年間の館別・月別開館日数
b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数
c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数
d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）
e 地域市民への図書館一般開放利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館）
(2) 図書資料の利用に関する統計
a 館別・月別図書利用者数および利用冊数
b 月別入庫検索者数（総合図書館）
c グループ閲覧室利用状況（総合図書館）
d 文献複写サービス
e 図書館間相互利用件数
f 参考業務（総合図書館）
g 利用指導
h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル
i 文献・情報データベース検索回数
j キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）
k 利用者用パソコン設置台数
(3) 蔵書に関する統計
① 収書状況
【参考1】図書資料の所蔵数（平成23年度末現在）〔大学基礎データ様式表41〕
【参考2】過去5年間の図書の受入数
a 図書資料異動状況
b 雑誌・新聞受入種類数
② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）
③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）
④ 図書費執行額5年間の推移
(4) その他関連統計等
① 図書館職員
【参考3】学生の閲覧座席数〔大学基礎データ様式表43〕
② 10年間の展示会テーマと会期
③ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

(1) 入館者に関する統計

a 過去5年間の館別・月別開館日数

館別	年度	月別												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合図書館	平成19年度	29 (5)	30 (6)	28 (4)	29 (5)	19 (0)	25 (3)	29 (5)	26 (4)	26 (5)	24 (4)	17 (0)	19 (0)	301 (41)
	平成20年度	29 (4)	30 (6)	28 (5)	30 (5)	17 (0)	27 (3)	30 (5)	26 (5)	26 (4)	25 (4)	17 (0)	18 (0)	303 (41)
	平成21年度	29 (4)	25 (7)	28 (4)	30 (5)	17 (0)	27 (4)	30 (5)	25 (5)	25 (4)	25 (4)	16 (0)	19 (0)	296 (42)
	平成22年度	29 (4)	30 (7)	29 (4)	30 (5)	17 (0)	26 (2)	30 (6)	26 (5)	25 (4)	26 (5)	16 (0)	19 (0)	303 (42)
	平成23年度	29 (4)	30 (7)	28 (3)	30 (6)	18 (0)	24 (2)	30 (6)	26 (4)	25 (5)	27 (5)	17 (0)	21 (0)	305 (42)
高槻図書館	平成19年度	24	24	24	24	17	20	25	24	19	20	17	19	257
	平成20年度	25	24	23	25	13	21	25	22	20	20	17	18	253
	平成21年度	25	18	24	25	13	20	25	20	20	20	16	19	245
	平成22年度	25	23	25	25	14	21	24	21	20	21	16	19	254
	平成23年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	21	258
ミューズ 大学図書館	平成22年度	22	23	25	25	14	21	24	21	20	21	16	19	251
	平成23年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	21	258

堺キャンパス 図書館	平成22年度	22	23	25	25	14	21	24	21	20	21	14	11	241
	平成23年度	25	23	25	23	16	20	24	22	20	22	17	20	257

注1 () 内は授業期間中の日曜・祝日開館日数で内数。高槻・ミュージズ・堺の各図書館(室)は日曜・祝日は開館(室)していない。

- 2 夏季一斉休業期間中の休館 8月11日～8月20日
- 3 冬季一斉休業期間中の休館 12月27日～1月4日
- 4 入学試験等による休館 2月1日～2月8日、3月2日～3月4日
- 5 年度末休館 3月29日～3月31日
- 6 臨時休館・閉館
 暴風警報発令による 全館休館：9月21日、総合図書館：9月3日、高槻図書室：7月20日、
 堺キャンパス図書館：7月20日
 その他の事情による ミュージズ大学図書館：7月30日、堺キャンパス図書館：3月17日

b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数

所属		館	総合図書館	高槻図書室	ミュージズ大学図書館	堺キャンパス図書館
学部 学生	法 学 部	入 館 者 数	126,978	—	208	41
		平均入館回数	38.8	—	0.1	0
	文 学 部	入 館 者 数	105,728	—	270	48
		平均入館回数	26.3	—	0.1	0
	経 済 学 部	入 館 者 数	68,626	—	28	7
		平均入館回数	21.9	—	0	0
	商 学 部	入 館 者 数	70,203	—	42	16
		平均入館回数	22.7	—	0	0
	社 会 学 部	入 館 者 数	69,507	—	44	33
		平均入館回数	19.6	—	0	0
	政策創造学部	入 館 者 数	33,404	—	10	0
		平均入館回数	22.3	—	0	0
	外 国 語 学 部	入 館 者 数	9,498	—	1	2
		平均入館回数	17.9	—	0	0
	人 間 健 康 学 部	入 館 者 数	438	—	3	11,688
		平均入館回数	0.6	—	0	16.6
	総合情報学部	入 館 者 数	1,365	—	1,150	25
		平均入館回数	0.6	—	0.5	0
	社会安全学部	入 館 者 数	293	—	18,518	0
		平均入館回数	0.5	—	33.1	0
システム理工学部	入 館 者 数	52,025	—	87	3	
	平均入館回数	23.5	—	0	0	
環境都市工学部	入 館 者 数	28,114	—	2	1	
	平均入館回数	20.5	—	0	0	
化学生命工学部	入 館 者 数	42,881	—	70	1	
	平均入館回数	28.3	—	0	0	
工 学 部	入 館 者 数	1,002	—	1	0	
	平均入館回数	7.3	—	0	0	
学 部 合 計	入 館 者 数	610,062	—	20,434	11,865	
	平均入館回数	21.9	—	0.7	0.4	
大学院学生		入 館 者 数	54,173	—	1,105	91
		平均入館回数	24.1	—	0.5	0
専任 教職員	大 学 教 員	入 館 者 数	6,526	—	472	365
		平均入館回数	8.6	—	0.6	0.5
	高 中 幼 教 諭	入 館 者 数	516	—	68	48
		平均入館回数	3.8	—	0.5	0.4
	事 務 職 員	入 館 者 数	1,301	—	411	124
		平均入館回数	2.6	—	0.8	0.3
上記を除く教職員		入 館 者 数	12,256	—	514	242
校 友		入 館 者 数	24,680	—	943	0
そ の 他		入 館 者 数	22,449	—	2,253	66
合 計		入 館 者 数	731,963	47,715	26,200	12,801

- 注1 総合図書館、ミュージズ大学図書館、堺キャンパス図書館は入館機により計数、高槻図書室は入館機が導入されていないため合計のみ。
 2 平均入館者数は、入館者数を利用対象者数(平成23年5月1日現在)で割った、一人当たりの数値である。
 3 その他は、科目等履修生や聴講生、協定大学(関西学院・同志社・立命館・大阪府立・大阪市立・早稲田)の専任教員や大学院学生、他機関からの利用者である。
 4 工学部は、平成19年度にシステム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部の3学部改編されたが、上位年次生は工学部としての所属であるため、理工系3学部と工学部で集計している。

c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数

館・資格 月	総合図書館								高槻図書室	
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日	総入室者数	日平均
4	64,185	7,406	2,529	3,157	1,745	79,022	3,086.8	463.0	5,538	221.5
5	67,489	6,411	2,232	3,409	1,701	81,242	3,385.4	482.4	5,369	233.4
6	72,029	6,744	2,307	3,187	1,645	85,912	3,379.8	472.0	5,714	228.6
7	122,139	6,010	1,924	2,537	1,350	133,960	5,185.3	1,585.7	7,975	346.7
8	15,166	2,667	1,029	1,719	801	21,382	1,187.9	0.0	327	20.4
9	24,702	3,994	1,455	2,052	1,132	33,335	1,478.2	407.0	2,108	105.4
10	32,343	4,039	1,298	1,423	987	40,090	1,554.7	463.0	5,111	213.0
11	54,790	5,356	1,852	2,275	1,397	65,670	2,900.9	462.5	4,717	214.4
12	47,813	4,553	1,530	1,908	1,171	56,975	2,743.2	422.4	3,741	187.1
1	100,897	4,746	1,582	1,863	1,215	110,303	4,719.7	1,294.0	6,537	297.1
2	7,187	1,428	873	816	873	11,177	657.5	0.0	407	23.9
3	1,322	819	1,988	334	8,432	12,895	614.0	0.0	171	8.1
合 計	610,062	54,173	20,599	24,680	22,449	731,963	2,668.4	718.6	47,715	184.9
館・資格 月	ミ ュ ー ズ 大 学 図 書 館									
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日		
4	2,362	131	137	98	258	2,986	119.4	-		
5	2,467	129	162	81	185	3,024	131.5	-		
6	3,068	124	143	134	206	3,675	147.0	-		
7	4,877	148	128	120	137	5,410	235.2	-		
8	231	44	78	92	107	552	34.5	-		
9	573	77	73	122	123	968	48.4	-		
10	1,058	97	127	123	228	1,633	68.0	-		
11	1,044	96	131	62	183	1,516	68.9	-		
12	846	90	108	43	159	1,246	62.3	-		
1	3,736	119	137	40	161	4,193	190.6	-		
2	143	40	66	20	193	462	27.2	-		
3	29	10	175	8	313	535	25.5	-		
合 計	20,434	1,105	1,465	943	2,253	26,200	101.6	-		
館・資格 月	堺 キ ャ ン パ ス 図 書 館									
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日		
4	1,392	1	91	0	13	1,497	59.9	-		
5	1,376	9	108	0	5	1,498	65.1	-		
6	1,650	5	102	0	12	1,769	70.8	-		
7	2,910	11	66	0	9	2,996	130.3	-		
8	45	9	23	0	0	77	4.8	-		
9	385	12	46	0	2	445	22.3	-		
10	860	13	60	0	0	933	38.9	-		
11	865	14	78	0	0	957	43.5	-		
12	692	5	58	0	0	755	37.8	-		
1	1,654	6	64	0	0	1,724	78.4	-		
2	35	6	32	0	2	75	4.4	-		
3	1	0	51	0	23	75	3.8	-		
合 計	11,865	91	779	0	66	12,801	49.8	-		

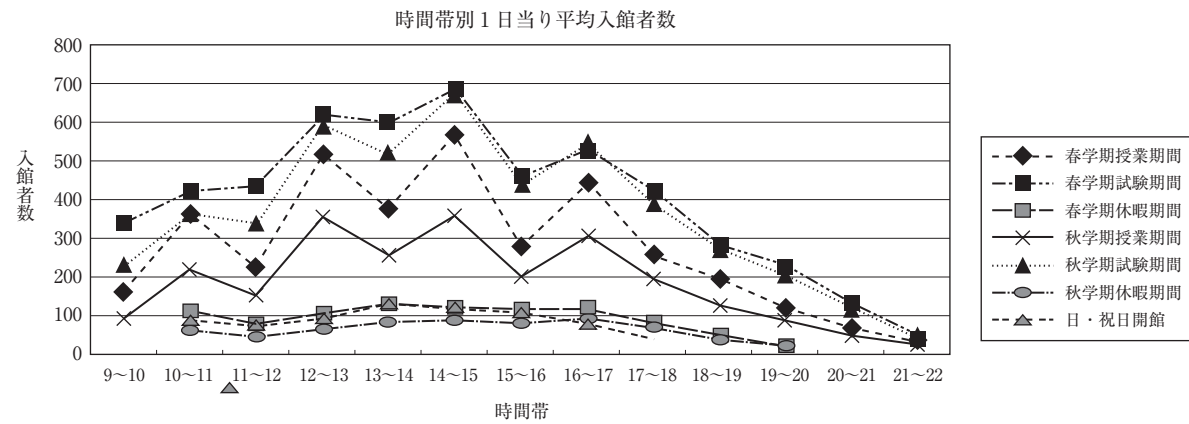
注1 高槻図書室については、資格別の計数をしていない。

2 「教職員」とは上記b表の専任教職員および上記を除く教職員を示し、「その他」とは上記b表の注3に同じ。

d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数(総合図書館)

区分	時間帯	9~10	10~11	11~12	12~13	13~14	14~15	15~16	16~17	17~18	18~19	19~20	20~21	21~22	合計		
春 学 期	授業期間	総入館者	13,325	29,745	18,555	42,956	31,439	47,422	23,231	36,860	21,307	16,172	9,780	5,590	2,499	298,881	
		1日平均	160.5	358.4	223.6	517.5	378.8	571.3	279.9	444.1	256.7	194.8	117.8	67.3	30.1	3,601.0	
	試験期間	総入館者	4,418	5,465	5,636	8,060	7,810	8,931	6,057	6,870	5,489	3,636	2,944	1,628	530	67,474	
		1日平均	339.8	420.4	433.5	620.0	600.8	687.0	465.9	528.5	422.2	279.7	226.5	125.2	40.8	5,190.3	
	休暇期間	総入館者		3,587	2,418	3,308	4,072	3,943	3,708	3,808	2,696	1,504	682			29,726	
		1日平均		108.7	73.3	100.2	123.4	119.5	112.4	115.4	81.7	45.6	20.7			2,286.6	
	小計	総入館者	18,358	38,182	26,609	54,324	43,321	60,296	32,996	47,538	29,492	21,312	13,317	7,280	3,056	396,081	
		1日平均	142.3	296.0	206.3	421.1	335.8	467.4	255.8	368.5	228.6	165.2	103.2	56.4	23.7	3,070.4	
	秋 学 期	授業期間	総入館者	6,704	15,983	11,038	26,293	18,760	26,459	14,788	22,733	14,486	9,119	6,568	3,324	1,539	177,794
			1日平均	90.6	216.0	149.2	355.3	253.5	357.6	199.8	307.2	195.8	123.2	88.8	44.9	20.8	2,402.6
		試験期間	総入館者	5,066	7,899	7,433	13,023	11,367	14,895	9,739	12,003	8,556	5,992	4,466	2,603	791	103,833
			1日平均	230.3	359.0	337.9	592.0	516.7	677.0	442.7	545.6	388.9	272.4	203.0	118.3	36.0	4,719.7
休暇期間		総入館者		2,225	1,727	2,462	3,122	3,294	3,083	3,432	2,644	1,472	611			24,072	
		1日平均		58.6	45.4	64.8	82.2	86.7	81.1	90.3	69.6	38.7	16.1			633.5	
小計		総入館者	12,062	25,815	20,198	41,778	33,249	44,648	27,610	38,168	25,686	16,583	11,598	5,964	2,340	305,699	
		1日平均	90.0	192.6	150.7	311.8	248.1	333.2	206.0	284.8	191.7	123.8	86.6	44.5	17.5	2,281.3	
日祝開館		総入館者		3,703	2,900	3,890	5,338	4,856	4,494	3,294	1,708					30,183	
		1日平均		88.2	69.0	92.6	127.1	115.6	107	78.4	40.7					718.6	
年度合計		総入館者	30,420	67,700	49,707	99,992	81,908	109,800	65,100	89,000	56,886	37,895	24,915	13,244	5,396	731,963	
		1日平均	99.7	222.0	163.0	327.8	268.6	360.0	213.4	291.8	186.5	124.2	81.7	43.4	17.7	2,399.9	

- 注1 春学期 授業期間：4月5日～7月17日 試験期間：7月18日～8月2日 休暇期間：4月1日～4月4日、8月5日～9月19日
 秋学期 授業期間：9月20日～12月26日 試験期間：1月5日～1月31日 休暇期間：2月11日～3月28日
 2 各期間の開館日数および入館者数には、日曜祝日開館に係る数値を含まない。
 3 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日までを示す。
 4 各小計及び年間の時間帯別平均入館者数は開館実日数で除しているが、年間総平均入館者数は年間開館日数で除している。



e 地域市民への図書館一般開放利用申請者数(総合図書館・ミュージズ大学図書館)

総合図書館	新規	再登録	合計	対象
平成19年度	102	-	102	吹田市在住者
平成20年度	42	50	92	吹田市在住者
平成21年度	95	51	146	吹田市・高槻市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成22年度	60	90	150	吹田市・高槻市・池田市・堺市・八尾市の在住者
平成23年度	59	77	136	吹田市・池田市・堺市・八尾市の在住者

- 注1 平成17年11月～平成19年3月に図書館一般開放モニター制度を実施し、110名の申込があった。
 注2 平成22年9月に高槻市民利用が開始されたため、地域市民登録者数のうち高槻市在住の3名が高槻市民利用への登録変更を行った。

ミュージズ大学図書館	新規	再登録	合計	対象
平成22年度	71	0	71	高槻市在住(地域市民利用から登録変更の3名を含む)
平成23年度	46	19	65	高槻市在住

- 注1 平成22年9月から高槻市民利用を開始した。

(2) 図書資料の利用に関する統計

a 館別・月別図書利用者数および利用冊数

利用者区分		月												合 計	
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
総 合 覧	館 内 閲 覧	学部学生	637	824	932	785	189	388	921	961	829	573	74	79	7,192
		大学院学生	1,059	1,371	1,706	1,412	384	752	1,752	1,912	1,684	1,002	150	175	13,359
		教 職 員	184	190	230	166	134	158	210	207	184	110	44	48	1,865
		そ の 他	314	353	493	347	355	354	462	448	405	226	102	120	3,979
		計	76	79	84	57	44	68	59	49	50	66	29	37	698
	書 館 外 貸 出	計	137	142	161	118	125	144	120	113	89	220	56	80	1,505
		学部学生	147	253	234	218	183	202	274	191	213	157	99	174	2,345
		大学院学生	356	750	554	623	624	824	841	540	735	458	317	567	7,189
		教 職 員	1,044	1,346	1,480	1,226	550	816	1,464	1,408	1,276	906	246	338	12,100
		そ の 他	1,866	2,616	2,914	2,500	1,488	2,074	3,175	3,013	2,913	1,906	625	942	26,032
図 書 館	館 外 貸 出	計	10,399	12,238	13,998	15,593	3,584	5,630	12,638	12,269	12,150	13,000	1,551	1,197	114,247
		学部学生	20,169	23,376	26,702	29,759	9,661	12,374	24,921	24,635	25,477	27,061	3,792	2,715	230,642
		大学院学生	2,832	2,557	2,469	2,224	1,147	1,584	2,339	2,130	1,992	1,829	634	678	22,415
		教 職 員	6,126	5,274	5,085	5,051	2,776	3,484	5,147	4,659	4,506	4,280	1,540	1,623	49,551
		そ の 他	850	770	771	744	485	678	764	630	600	587	340	357	7,576
	合 計	計	2,053	1,858	1,800	1,754	1,322	1,679	1,819	1,414	1,328	1,443	817	880	18,167
		学部学生	820	970	873	642	553	628	802	640	665	501	385	535	8,014
		大学院学生	1,908	2,185	1,879	1,795	1,278	1,296	1,712	1,437	1,413	1,084	898	1,223	18,108
		教 職 員	14,901	16,535	18,111	19,203	5,769	8,520	16,543	15,669	15,407	15,917	2,910	2,767	152,252
		そ の 他	30,256	32,693	35,466	38,359	15,037	18,833	33,599	32,145	32,724	33,868	7,047	6,441	316,468
合 計	計	15,945	17,881	19,591	20,429	6,319	9,336	18,007	17,077	16,683	16,823	3,156	3,105	164,352	
	計	32,122	35,309	38,380	40,859	16,525	20,907	36,774	35,158	35,637	35,774	7,672	7,383	342,500	

高 槻 図 書 室	館 外 貸 出	学部学生	507	604	649	458	78	202	599	523	485	518	30	24	4,677
		計	839	935	1,062	761	258	356	1,095	887	857	967	65	57	8,139
	館 内 閲 覧	大学院学生	90	59	69	75	37	60	112	96	53	45	16	16	728
		計	216	136	152	187	103	148	264	231	120	128	40	38	1,763
	そ の 他	教 職 員	34	41	40	25	19	15	26	29	24	23	7	8	291
		計	83	109	85	65	56	82	61	97	64	67	16	15	800
合 計	計	668	740	819	608	168	308	770	677	595	632	76	71	6,132	
合 計	計	1,207	1,231	1,400	1,082	470	641	1,469	1,329	1,109	1,235	157	143	11,473	

ミ ュ ー ズ 大 学 図 書 館	館 外 貸 出	学部学生	147	232	431	381	46	57	104	114	162	396	24	17	2,111
		計	211	341	829	682	131	100	155	185	288	728	55	33	3,738
	館 内 閲 覧	大学院学生	38	43	47	49	18	28	37	38	41	52	15	19	425
		計	82	104	100	101	49	56	77	84	84	129	29	41	936
	そ の 他	教 職 員	24	40	34	23	19	20	32	28	25	27	19	16	307
		計	43	108	115	85	38	42	108	106	70	94	53	52	914
合 計	計	107	82	94	73	49	72	118	109	88	69	42	62	965	
合 計	計	214	171	175	190	108	155	272	250	195	145	112	147	2,134	
合 計	計	316	397	606	526	132	177	291	289	316	544	100	114	3,808	
合 計	計	550	724	1,219	1,058	326	353	612	625	637	1,096	249	273	7,722	

堺 キ ャ ン パ ス 図 書 館	館 外 貸 出	学部学生	202	220	323	327	16	78	190	176	129	182	15	7	1,865
		計	303	302	493	525	56	123	292	289	221	333	42	11	2,990
	館 内 閲 覧	大学院学生	0	2	0	2	0	4	1	4	2	1	3	0	19
		計	0	3	0	11	0	9	3	9	2	3	12	0	52
	そ の 他	教 職 員	45	43	51	29	15	23	30	44	29	34	14	11	368
		計	143	77	109	84	43	55	76	120	61	102	31	30	931
合 計	計	36	30	32	25	11	30	34	30	28	22	10	9	297	
	計	60	44	43	33	18	40	45	38	42	33	11	10	417	
合 計	計	283	295	406	383	42	135	255	254	188	239	42	27	2,549	
合 計	計	506	426	645	653	117	227	416	456	326	471	96	51	4,390	

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

注2 総合図書館の館内閲覧は、書庫図書の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行ったものを示す。

b 月別入庫検索者数(総合図書館)

利用区分		月												合 計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合図書館	入庫検索	学部学生	790	1,022	1,219	998	398	662	1,321	1,216	1,248	750	135	116	9,875
		大学院学生	1,241	1,202	1,181	1,086	512	765	1,261	1,208	1,027	870	332	395	11,080
		教 職 員	745	608	648	594	450	565	644	531	458	482	263	308	6,296
		そ の 他	57	64	66	57	49	53	66	71	46	70	59	81	739
		計	2,833	2,896	3,114	2,735	1,409	2,045	3,292	3,026	2,779	2,172	789	900	27,990

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。

2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c グループ閲覧室利用状況(総合図書館)

月別	区分	利用コマ数	利用者数
4月		69	1,134
5月		70	1,378
6月		70	1,274
7月		39	706
8月		23	312
9月		44	797
10月		27	474
11月		72	955
12月		40	633
1月		35	541
2月		2	113
3月		5	49
合 計		496	8,366
日平均 (日祝日を除く)		1.9	32

注 総合図書館3階の申し込みが必要なグループ閲覧室の利用状況である。

d 文献複写サービス

種別・月別		区 分	
		総合図書館 枚 数	高槻図書室 枚 数
電 子 式 複 写	4月	83,735	753
	5月	78,294	689
	6月	72,769	948
	7月	107,351	630
	8月	56,591	825
	9月	68,402	930
	10月	86,658	1,477
	11月	97,821	734
	12月	66,666	1,039
	1月	73,056	637
	2月	45,149	392
	3月	51,402	160
小計	887,894	9,214	
カラー複写	596	0	
CD-ROM検索 カラー印刷	468	0	
小 計	1,064	0	
合 計	888,958	9,214	
複 写 ロ ック	学内者(コマ数)	11,992	-
	学外者(コマ数)	859	-

e 図書館間相互利用件数

種別 月別	国 内								国 外								
	提 供				依 頼				提 供				依 頼				
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	
4月	18	37	276	331	10	64	226	300	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	23	72	301	396	13	63	225	301	0	0	0	0	0	0	0	3	3
6月	42	62	438	542	7	87	284	378	0	0	0	0	0	0	0	3	3
7月	33	70	344	447	27	64	249	340	0	0	0	0	3	0	0	3	6
8月	31	31	213	275	9	55	231	295	0	0	2	2	2	0	0	0	2
9月	41	70	374	485	12	47	255	314	0	3	0	3	2	0	0	2	4
10月	40	66	397	503	18	64	349	431	1	0	0	1	1	0	0	3	4
11月	49	61	360	470	15	73	430	518	0	0	2	2	3	0	0	1	4
12月	25	47	348	420	17	64	267	348	0	2	6	8	1	0	0	2	3
1月	23	58	250	331	12	43	194	249	0	1	2	3	0	0	0	2	2
2月	20	40	180	240	9	24	146	179	0	0	4	4	3	0	0	0	3
3月	33	0	0	33	8	0	0	8	0	0	0	0	3	0	0	0	3
合 計	378	614	3,481	4,473	157	648	2,856	3,661	1	6	16	23	18	0	0	19	37

注1 提供の貸出と複写、依頼の借用と複写の件数にはキャンセル件数を含む。

f 参考業務（総合図書館）

(件数)

区分	学内利用者				学外利用者			合計	
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校友	諸機関	その他		
調査	所蔵	14	14	7	0	0	1	1	37
	事項	2	1	1	3	0	0	0	7
	その他	2	4	1	0	1	0	1	9
	計	18	19	9	3	1	1	2	53

注1 総合図書館における申込書の提出により処理した件数のみ表す。

注2 学内利用者中の「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生および聴講生が含まれる。

g 利用指導

種別	区分	総合図書館			高槻図書室			ミューズ大学図書館			堺キャンパス図書館		
		件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数
①	図書館ツアー（全館案内）	12	-	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
②	図書館ツアー（書庫のみ案内）	2	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
③	自由参加型文献の探し方ガイダンス	11	-	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-
④	上位年次生向け入庫案内	-	-	2,329	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤	文献の探し方ガイダンス	84	119	1,682	8	8	84	10	10	248	0	0	0
⑥	専門分野型ガイダンス	17	17	331	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑦	初級者向けガイダンス	105	105	2,158	-	-	-	11	11	274	18	18	360

注1 件数は実施回数、クラス数は参加したクラスの数、人数は参加者数である。

注2 ①②③は、個人単位で行う。

注3 ④は、個人単位、クラス単位の合算であり、件数（実施回数）は計数できない。

注4 キャンパスによっては実施していないガイダンス種別がある。ミューズの「文献の探し方G」は、院生対象で、クラス単位ではなく希望者のみの参加。

h 学内で閲覧利用できるオンラインジャーナル

種類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)	種類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)
ACS (American Chemical Society)	40	RSC (Royal Society of Chemistry)	41
APS (American Physical Society)	8	Sage Premier	564
beck-online	146	SourceOECD	37
Cambridge Journals Online	271	SpringerLINK	1,900
CiNii	7,443	Taylor & Francis	1,409
Elsevier ScienceDirect	2,154	Wiley InterScience	1,367
Emerald Fulltext	95	日経 BP 記事検索サービス	53
IEL (IEEE/IEE Electronic Library)	415	その他	1,081
JSTOR	118	合計	17,380
Oxford Journals	238		

注1 計数処理の都合により作業時点（平成24年5月14日）での数字となっている。

i 文献・情報データベース検索回数

種 別	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年	平成 23 年	備 考
beck-online:プレミアム版(ドイツ法情報データベース)	3,623	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	
CiNii(NII論文情報ナビゲータ)	133,571	167,195	268,673	259,915	257,331	平成17年4月～
NACSIS-IR(学術文献データベース)*	-	-	-	-	-	平成17年3月終了
CSA Illumina(専門分野型データベース)	3,660	3,477	5,239	3,245	4,085	平成15年11月～
LISA(図書館情報学文献索引)	◇	◇	◇	◇	◇	
LLBA(言語学雑誌記事・文献索引)	◇	◇	◇	◇	◇	
eBook Collection(EBSCOhost)	-	-	-	-	787	平成23年7月～
eol ESPer(有価証券報告書を含む企業情報データベース)	22,989	19,566	46,507	41,059	62,127	平成18年4月～
法律文献総合 Index	-	-	-	-	200	平成23年7月～
法律判例文献情報(法関連文献索引)*	1,132	591	1,303	1,260	1,212	平成18年4月～
ジャパンナレッジ(百科事典データベース)*	1,472	1,494	1,866	1,618	1,785	平成17年4月～
JCIF(国際金融情報センターオンラインサービス)	2,964	3,227	3,503	70	36	平成18年4月～
Jdream II(科学技術情報索引)	86,535	84,832	69,004	64,886	61,342	
Journal Citation Reports	-	-	-	380	338	平成22年4月～
JURIS Online(独国法律情報データベース)	1,184	631	613	1,189	552	平成16年10月
官報情報データベース	22	9	4	1	1	平成18年4月～
化学書資料館(国内で発行された化学書データベース)	2,489	2,473	3,728	2,713	2,411	平成19年4月～
聞蔵IIビジュアル(朝日新聞記事索引)*	6,747	6,037	5,498	6,823	7,931	平成18年10月～
KISS △	-	664	3,751	1,716	7,866	平成20年8月～
公的判例集データベース					148	平成23年7月～
LEX/DBインターネット(法律情報データベース)*	6,967	6,395	5,682	6,957	7,108	平成15年4月～
Lexis.com(法情報索引)	11,806	10,552	6,267	12,142	9,306	
Magazineplus(和雑誌記事索引)	84,535	61,609	41,437	37,394	28,289	
毎日 News パック(毎日新聞記事索引)*	計数されていない	1,443	1,597	1,698(4-12月)	1,877(1-3,5-12月)	平成17年4月～
MARQUIS Who's Who on the Web(人名録データベース)	65	64	71	-	-	平成22年3月終了
MathSciNet(数学文献データベース)	13,997	12,730	13,406	12,318	14,817	平成18年11月～
Mergent Online(米国企業情報データベース)*	78	31	計数されていない	-	-	平成15年11月～平成22年3月
Mpac(マーケティング情報サービス)	1,442	2,516	3,091	2,380	6,354	平成19年10月～
日経 NEEDS-Financial QUEST(社会・地域統計)★	10,813,053	11,286	6,508	203,453	12,937,605	平成14年7月～
日経テレコン21(ビジネス情報データベース)☆	824,674	581,928	626,110	812,061	1,124,522	平成15年10月～
OCLC FirstSearch(総合データベース)	3,569	2,672	-	-	-	～平成21年1月
PsycINFO(心理学雑誌記事・文献索引)	2,246	1,628	計数されていない	計数されていない	計数されていない	平成18年4月～
SciFinder Scholar(化学情報データベース)	34,309	37,405	33,626	33,971	46,256	
速報判例解説	-	-	-	-	90	平成23年7月～
Super 法令 web	-	-	-	-	97	平成23年7月～
Web of Knowledge(引用情報を含む学術文献データベース)*	10,105	9,862	12,667	12,956	14,929	
Web of Science(引用・被引用論文索引)	28,169	18,411	44,363	43,642	40,095	平成13年8月～
Web OYA-bunko(大宅壮一文庫雑誌記事索引)*	386	177	168	252	377	平成17年11月～
Westlaw(法情報索引)	1,833	2,589	計数されていない	4,197	5,621	
ヨミダス文書館(読売新聞記事索引)	12,889	10,606	8,493	7,030	7,849	平成17年4月～

注1 各統計は、1月～12月までの合計である。また、統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用している。したがって、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であるとは限らない。

2 *はログイン回数、☆は結果表示件数、★はダウンロード件数、△はページレビュー数を示す。

3 表中の「-」は、当該年度が利用(統計上)開始前または利用提供終了(提供方法変更)後であることを示す。

4 CSA Illuminaには、ERIC、LISA、LLBA、Worldwide Political science abstracts、Sociological Abstractsが含まれる。また、平成18年1月からはSAGE Full-Text Collectionsが、平成18年4月からはPsycINFOが検索対象に追加された。◇はCSA Illuminaの統計値に含まれることを示す。

5 MERGENT Onlineの平成18年6月7日から平成18年7月6日までの件数は提供機関でのシステムトラブルで作成されなかった為含まれていない。

6 NACSIS-IRは平成17年3月末にサービスを終了し、平成17年4月からGeNii(学術コンテンツポータル)のもとでCiNii等のデータベースにサービスが再編された。

7 JURIS Onlineは平成18年7月に新システムに移行したことにより、統計値には文書取出件数(文書〈全文・要約・抄録等〉の閲覧件数)を計上している。

8 ジャパンナレッジは、2008年8月から日国オンラインおよび日本歴史地名大系を含む。

9 SciFinderについては、平成23年の統計より計数の方法が変更になった。

10 eBook Collection(EBSCOhost)*旧Netlibraryについては、平成23年7月のプラットフォーム変更以降の検索回数を計数している。

j キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）

		提供冊数（受付館）				合 計
		総合図書館	高槻図書室	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	
受入冊数 （依頼館）	総合図書館		2,738	1,001	1,481	5,220
	高槻図書室	2,003		88	104	2,195
	ミューズ大学図書館	1,746	229		84	2,059
	堺キャンパス図書館	798	79	20		897
	合 計	4,547	3,046	1,109	1,669	

k 利用者用パソコン設置台数

総合図書館	高槻図書室	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合 計
76	9	11	16	112

(3) 蔵書に関する統計

① 収書状況

【参考 1】 図書資料の所蔵数（平成 23 年度末現在）

〔大学基礎データ様式 表 41〕

区 分	種 別	図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類数		視聴覚資料 の 所 蔵 数 （点数）	電子ジャー ナルの種類 （点数）
		図書の冊数	開架図書の 冊数(内数)	内国書	外国書		
総合図書館		2,079,291	216,618	14,884 (2,563)	8,695 (1,583)	118,168	18,580
高槻図書室		50,194	50,194	261 (180)	241 (86)	315	-
ミューズ大学図書館		34,950	34,950	336 (137)	24 (22)	248	-
堺キャンパス図書館		27,204	27,204	113 (106)	31 (31)	0	-
法学部資料室		28,684	28,684	796 (434)	48 (30)	70	-
経商資料室		30,609	30,609	968 (532)	225 (45)	0	-
社会学部資料室		39,736	39,736	369 (365)	15 (3)	0	-
外国語学部資料室		3,709	3,709	3 (2)	32 (27)	0	-
視聴覚資料関係 (LL 資料室、メディアライブラリー 1・2)		24,085	-	-	-	24,085	-
法科大学院ロー・ライブラリー		8,531	8,531	129 (96)	1 (0)	0	-
会計専門職大学院資料室（図書閲覧室）		1,135	1,135	13 (10)	0 (0)	0	-
東西学術研究所		17,124	0	630 (226)	140 (26)	112	-
経済・政治研究所		19,074	0	82 (82)	1 (1)	0	-
法学研究所		15,334	0	95 (91)	23 (4)	438	-
人権問題研究室		24,924	24,924	112 (112)	1 (1)	836	-
計		2,404,584	466,294	18,791 (4,936)	9,477 (1,859)	144,272	18,580

注 1 製本した雑誌等逐次刊行物は図書の冊数に加えている。

2 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープおよび CD-ROM・DVD-ROM 等を含み、図書の冊数の内数である。

3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの種類数は含んでいない。下段の（ ）の数は継続して受け入れている種類数で、内数である。

* 電子ジャーナルは総合図書館で集中管理をしている。

【参考2】 過去5年間の図書の受入数

(単位：冊)

館	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	総合図書館		38,480	38,141	37,199	37,889
高槻図書室		2,906	3,001	1,985	3,695	2,811
ミューズ大学図書館		-	-	20,793	11,813	2,344
堺キャンパス図書館		-	-	19,351	3,264	4,589
計		41,386	41,142	79,328	56,661	44,991

a 図書資料異動状況

(単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	23,346	7,450	306	666	26	31,794
	受贈	1,295	1,871	0	0	15	3,181
	その他	2,156	365	543	0	19	3,083
	合計	26,797	9,686	849	666	60	38,058
	除籍抹消	14,075	683	0	0	0	14,758
	増減計	12,722	9,003	849	666	60	23,300
	期末在高	1,227,197	780,255	93,055	23,783	5,195	2,129,485

注1 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

注2 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。以下の統計についても同様とする。

注3 「種別」の「その他」はAV資料、CD-ROM、DVD-ROM等の資料を含む。

b 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,518	1,579	3,097
	受贈	1,169	65	1,234
	その他	56	25	81
	合計	2,743	1,669	4,412

注 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	10,485	10,769	21,254
010	図書館	5,667	4,449	10,116
020	図書・書誌学	15,370	14,315	29,685
030	百科事典	3,409	3,927	7,336
040	一般論文・講演集	16,499	1,461	17,960
050	逐次刊行物・年鑑	21,309	7,555	28,864
060	学会・団体・調査機関	1,162	438	1,600
070	ジャーナリズム・新聞	14,644	7,005	21,649
080	叢書・全集	54,236	17,730	71,966
090	郷土資料	1,222	2,294	3,516
総記・計		144,003	69,943	213,946
100	哲 学	3,608	4,727	8,335
110	哲学各論	1,977	3,507	5,484
120	東洋思想	16,456	685	17,141
130	西洋思想	6,167	18,179	24,346
140	心理学	10,648	14,443	25,091
150	倫理学	3,037	1,264	4,301
160	宗 教	4,944	3,712	8,656
170	神 道	2,375	45	2,420
180	仏 教	13,734	1,803	15,537
190	キリスト教	5,741	8,251	13,992
哲学・計		68,687	56,616	125,303
200	歴 史	5,618	10,392	16,010
210	日本史	47,038	1,140	48,178
220	アジア史・東洋史	27,847	4,652	32,499
230	ヨーロッパ史・西洋史	4,414	16,307	20,721
240	アフリカ史	297	1,525	1,822
250	北アメリカ史	654	2,587	3,241
260	南アメリカ史	77	84	161
270	オセアニア史	77	156	233
280	伝 記	18,711	6,804	25,515
290	地理・地誌・紀行	27,997	6,391	34,388
歴史・計		132,730	50,038	182,768
300	社会科学	11,274	7,855	19,129
310	政 治	34,272	45,615	79,887
320	法 律	55,873	76,962	132,835
330	経 済	78,519	91,537	170,056
340	財 政	6,785	6,331	13,116
350	統 計	8,615	5,450	14,065
360	社 会	46,203	48,317	94,520
370	教 育	39,849	12,912	52,761
380	風俗習慣・民俗学	15,092	4,131	19,223
390	国防・軍事	3,072	1,185	4,257
社会科学・計		299,554	300,295	599,849
400	自然科学	6,776	8,595	15,371
410	数 学	8,044	14,441	22,485
420	物理学	5,105	15,714	20,819
430	化 学	5,965	14,652	20,617
440	天文学・宇宙科学	1,912	1,004	2,916
450	地球科学・地学・地質学	4,817	4,012	8,829
460	生物科学・一般生物学	5,480	8,752	14,232
470	植物学	1,064	224	1,288
480	動物学	1,829	469	2,298
490	医学・薬学	15,647	8,903	24,550
自然科学・計		56,639	76,766	133,405
500	技術・工学・工業	14,061	21,777	35,838
510	建設工学・土木工学	14,988	10,888	25,876
520	建築学	13,952	6,047	19,999
530	機械工学・原子力工学	9,210	8,393	17,603
540	電気工学・電子工学	20,116	18,135	38,251
550	海洋工学・船舶工学・兵器	1,222	345	1,567
560	金属工学・鉱山工学	5,419	6,398	11,817
570	化学工業	6,586	7,069	13,655
580	製造工業	4,130	1,463	5,593
590	家政学・生活科学	1,448	374	1,822
技術・計		91,132	80,889	172,021

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	4,812	379	5,191
610	農 業	11,458	4,209	15,667
620	園芸・造園	1,082	195	1,277
630	蚕糸業	222	0	222
640	畜産業・獣医学	791	125	916
650	林 業	1,220	208	1,428
660	水産業	1,602	260	1,862
670	商 業	15,353	13,992	29,345
680	運輸・交通	7,695	6,414	14,109
690	通信事業	2,891	2,282	5,173
産業・計		47,126	28,064	75,190
700	芸 術	12,181	5,909	18,090
710	彫 刻	890	271	1,161
720	絵画・書道	16,477	3,441	19,918
730	版画	812	357	1,169
740	写真・印刷	1,859	472	2,331
750	工芸	3,877	1,329	5,206
760	音楽・舞踏	4,553	1,382	5,935
770	演劇・映画	12,408	2,717	15,125
780	スポーツ・体育	5,390	931	6,321
790	諸芸・娯楽	1,391	143	1,534
芸術・計		59,838	16,952	76,790
800	言 語	4,033	12,983	17,016
810	日本語	9,497	255	9,752
820	中国語・東洋の諸言語	8,095	1,031	9,126
830	英 語	5,722	7,318	13,040
840	ドイツ語	1,002	4,377	5,379
850	フランス語	922	2,959	3,881
860	スペイン語	392	527	919
870	イタリア語	125	386	511
880	ロシア語	334	1,327	1,661
890	その他の諸言語	362	897	1,259
言語・計		30,484	32,060	62,544
900	文 学	11,755	10,556	22,311
910	日本文学	90,711	1,526	92,237
920	中国文学・東洋文学	26,338	756	27,094
930	英米文学	7,568	23,115	30,683
940	ドイツ文学	2,967	13,105	16,072
950	フランス文学	3,926	12,417	16,343
960	スペイン文学	1,482	10,649	12,131
970	イタリア文学	393	473	866
980	ロシア文学	1,663	3,149	4,812
990	その他の諸文学	392	1,294	1,686
文学・計		147,195	77,040	224,235
合 計		1,077,388	788,663	1,866,051
その他				263,434
図書館蔵書数				2,129,485

注1 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

2 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。

③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,612	953	5,565
100	哲 学	461	514	975
200	歴 史	823	334	1,157
300	社会科学	3,669	3,430	7,099
400	自然科学	663	910	1,573
500	技 術	1,664	1,594	3,258
600	産 業	661	348	1,009
700	芸 術	714	138	852
800	言 語	257	263	520
900	文 学	1,614	447	2,061
その他		7	5	12
合 計		15,145	8,936	24,081

注1 ミューズ大学図書館と堺キャンパス図書館の資料は含まない。

2 重複するタイトルは、カウントしていない。

④ 図書費執行額 5年間の推移

(単位:円)

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
図 書	和	92,804,911	98,280,281	90,979,271	98,071,771	88,725,235
	洋	123,413,024	103,568,268	105,135,784	107,073,292	89,317,650
雑 誌	和	20,908,276	21,250,500	23,308,883	27,597,037	21,979,472
	洋	222,469,045	240,599,697	241,252,027	231,126,763	248,368,306
電子媒体		4,926,615	8,332,706	5,981,796	5,380,577	6,907,986
マイクロ資料	和	3,771,000	5,838,720	2,808,000	7,804,336	0
	洋	51,348,223	47,487,700	51,383,314	56,439,641	51,503,090
その他の資料		19,673,001	15,038,092	17,713,047	9,771,836	15,213,413
外部データベース		50,320,962	49,890,682	52,013,539	50,396,618	66,823,480
合 計		589,635,057	590,286,646	590,575,661	593,661,871	588,838,632
製 本 費		8,510,901	7,185,024	7,246,638	7,724,600	7,371,672

注1 平成23年度のミューズ大学図書館の図書費執行額34,679,000円、堺キャンパス図書館17,827,000円。

注2 「電子媒体」はCD-ROM、DVD-ROM等を含む。

注3 その他の資料には、追録、AV資料を含む。

(4) その他関連統計等

① 図書館職員

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
専 任 職 員 〔人 数〕		30 (13)	29 (15)	24 (10)	24 (11)	22 (11)
定 時 職 員 〔総勤務時間〕		21,214	22,026	18,217	11,050	11,050
備 考		庶務エントランスチーム業務、研究メインチーム業務、文庫貴重書チーム業務にそれぞれ1名(以上継続)、雑誌レファレンスチーム業務に2名、計5名の「派遣職員」を採用。	庶務エントランスチーム業務、研究メインチーム業務、文庫貴重書チーム業務にそれぞれ継続して1名、計3名の「派遣職員」を採用。	庶務チーム業務に1名、研究書チーム業務に3名、学習書・レファレンスチーム業務に1名、高槻図書室業務に1名、私立大学図書館協会事務局業務に1名、計7名の「派遣職員」を採用。	収書チーム業務に3名、私立大学図書館協会事務局業務に1名、計4名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名の「派遣職員」を採用。

注1 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。

注2 () 内は女子の人数で内数を示す。

【参考3】 学生の閲覧座席数(平成24年4月1日現在)

〔大学基礎データ様式表43〕

図書館の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員 (B)	収容定員に対する 座席数の割合 A/B*100 (%)	その他の学習 室の座席数	備 考 【学生収容定員内訳】
総合図書館	2,248	22,115	10.17	-	(千里山キャンパス) ①学部 20,020名 ②大学院 2,095名
高槻図書室	288	2,084	13.82	-	(高槻キャンパス) ①学部 1,900名 ②大学院 184名
ミューズ大学図書館	134	780	17.18	-	(高槻ミューズキャンパス) ①学部 750名 ②大学院 30名
堺キャンパス図書館	272	900	30.22	-	(堺キャンパス) ①学部 900名
計	2,942	25,879	11.37	-	①学部 23,570名 ②大学院 2,309名

② 10年間の展示会テーマと会期

年 度	展示のテーマと講演会の演題		会 期
平成 15 年度	春季特別	「大阪文藝 長沖一展」	平成 15 年 4 月 1 日～5 月 18 日
	秋季特別	「江戸・明治初期の古書展―庶民の生活の中の古い―」 記念講演会 「今でも使われている運勢暦と大雑書の中の古い ―その仕組みを知っていますか―」	平成 15 年 11 月 6 日～12 月 13 日 平成 15 年 11 月 29 日
平成 16 年度	春季特別	「ローマ法の展開」	平成 16 年 4 月 1 日～5 月 5 日
	秋季特別	「〈新〉生田文庫の能楽資料」 記念講演会 対談「生田秀・耕一を語る―小鼓のはなし―」	平成 16 年 11 月 15 日～12 月 18 日 平成 16 年 11 月 30 日
	臨 時	「陳舜臣展」 「関西大学経済学部・商学部創設 100 年記念展示」	平成 16 年 5 月 10 日～5 月 16 日 平成 16 年 10 月 12 日～10 月 23 日
平成 17 年度	春季特別	「日本・明治期の新聞」	平成 17 年 4 月 1 日～5 月 15 日
	秋季特別	「八代集の世界―古今・新古今を中心に―」 記念講演会 「本を写すことと切ること」	平成 17 年 11 月 14 日～12 月 17 日 平成 17 年 11 月 29 日
平成 18 年度	春季特別	「大阪の女流文学」	平成 18 年 4 月 1 日～5 月 21 日
	商学部創設 100 周年記念展示	「近世・近代における商（あきない）の諸相と商学部 における学（まなび）の礎」	平成 18 年 5 月 27 日～6 月 24 日
	関西大学創立 120 周年記念展示	「大坂画壇の絵画―文人画・戯画から長崎派・写生画 へ―」 記念講演会 「大坂画壇の絵画」	第 1-3 部、平成 18 年 10 月 15 日～ 12 月 16 日 平成 18 年 11 月 16 日
平成 19 年度	春季特別	「子どもの遊びと絵本」	平成 19 年 4 月 1 日～5 月 20 日
	秋季特別	「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」 記念講演会 「廣瀬文庫とチョーサーをめぐる本たち」	平成 19 年 11 月 12 日～12 月 15 日 平成 19 年 11 月 29 日
平成 20 年度	春季特別	「百珍って何？―今に引き継ぐ江戸の食文化―」	平成 20 年 4 月 1 日～5 月 18 日
	特別企画展	「内藤湖南―近代日本の知の巨匠―」	平成 20 年 6 月 12 日～7 月 12 日
	秋季特別	「目で見る江戸俳諧の真髄―芭蕉・蕪村、そして俳諧の美―」 記念講演会 「芭蕉と蕪村の「奥の細道」」	平成 20 年 10 月 27 日～12 月 13 日 平成 20 年 11 月 17 日
平成 21 年度	春季特別	「長谷川貞信―大阪の浮世絵師―」	平成 21 年 4 月 1 日～5 月 17 日
	秋季特別	「伊勢物語の世界」 記念講演会 「『伊勢物語』の成立と享受―展示品を中心に―」	平成 21 年 10 月 1 日～10 月 31 日 平成 21 年 10 月 20 日
平成 22 年度	特 別 展	「資料に描かれた象―渡来象を中心に―」	平成 22 年 4 月 1 日～5 月 16 日
平成 23 年度	特 別 展	「大坂文人・学者の世界―江戸時代を中心に―」	平成 23 年 4 月 1 日～5 月 15 日

注 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。講演会はすべて総合図書館ホールで行っている。

③ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料
[出陳] 和歌山市立博物館	特別展「祇園南海とその時代」	平成23年10月22日(土) ～11月27日(日)	梅所詩稿 [L24*1-557] 方氏墨譜 [C*729.3*H1*1] 泉州志 [*291.637*11*1] 八種画譜 [*722.25*H2 (H)] 畫史会要 [*720.2*O1*1]
[出陳] 大阪人権博物館	第66回特別展 「モダンガール図 青鞆の時代」	平成23年9月6日(火) ～11月6日(日)	今日のいのち [LO2*Y*51*15] 三池 [LO2*Y*51*24] 今日のいのち 日活撮影台本 [LO2*Y*51*28] 秒刻 [LO2*S*30*13] 貴族 上下巻 [LO2*S*30*4] 新しき女の裏面 [N8*914.6*3505]
[出陳] 吹田市立博物館	夏季展示 「自然から学ぼう―災害と環境―」	平成23年7月16日(土) ～8月24日(日)	風俗画報 128号 [LM3*C41*100] 嘉永七年寅霜月大坂水害図 [L22*453**22] 洪水細見之図 [L22*451**28] 大阪府下洪水澱川沿岸被害細図 [H*369.33*A1*1]
[出陳] 柿衛文庫	秋季特別展 「西鶴一上方が生んだことばの魔術師」	平成23年9月10日(土) ～10月23日(日)	松に鶴図 [C*721.7*12*1]
[出陳] 茨城県立歴史館	特別展「妖怪見聞」	平成23年10月15日(土) ～11月27日(日)	絵本怪談揃 [*721.8*T20*1] 善知安方忠義伝 [*913.65*S5*1] 祐天上人一代記 [L24**5-162]

2 平成 23 年度 図書館自己点検・評価委員会名簿

*印は作業部会委員を示す。

	氏 名	備 考
規程 1 号委員 *	北 川 勝 彦	委員長・図書館長
規程 2 号委員 *	重 石 治 久	学術情報事務局次長（図書館担当）
規程 3 号委員	千 藤 洋 三	図書委員会委員（法学部選出）
	高 橋 秀 彰	図書委員会委員（外国語学部選出）
	秋 山 孝 正	図書委員会委員（環境都市工学部選出）
規程 4 号委員 *	金 東 澄	図書館事務室
	芝 野 由紀子	図書館事務室
	佃 彦 志	図書館事務室

【事務局（図書館事務室）】 金 東澄

3 関西大学図書館 自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

(趣 旨)

第1条 この規程は、関西大学図書館規程第6条第2項の規定に基づき、関西大学図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取り組みを行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

(各機関の協力)

第3条 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに係わる各機関に対して協力を求めることができる。

(報 告)

第4条 委員会は、自己点検・評価の結果を図書委員会に報告するとともに、学校法人関西大学自己点検・評価委員会の求めに応じて報告を行う。

(構 成)

第5条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
- (2) 学術情報事務局次長（図書館担当）
- (3) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
- (4) 図書館事務職員から若干名

(委員長等)

第6条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。

- 2 委員長に事故あるときは、学術情報事務局次長（図書館担当）がその職務を代行する。

(委員の任期)

第7条 第5条第3号及び4号に規定する委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(運 営)

第8条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。
- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第9条 委員会の事務は、図書館事務室が行う。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず平成16年3月31日までとする。

附 則

この規程（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この規程（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

第73回 (2012年度)

私立大学図書館協会総会・研究大会参加報告

加藤博之

私は8月30日、31日の2日間にわたり、第73回(2012年度)私立大学図書館協会総会・研究大会に参加する機会を得た。以下はその参加報告である。

1. 当総会・研究大会について

当総会・研究大会は200校以上の私立大学から図書館長および図書館管理職者等が参加する大会合である。本年度は、慶應義塾大学三田キャンパスにて開催された。なお、当大会は毎回テーマが設定されており、この第73回大会のテーマは「個性化の戦略—創造する大学図書館—」であった。

初日は私立大学図書館協会の総会および記念講演があり、その後、場所をグランドプリンスホテル高輪に移して意見交換会が行われた。総会では、私立大学図書館協会の2011年度からこの総会に至るまでの私立大学図書館協会の活動内容等の報告があった。総会当日に配布された総会資料の式次第に目を通すと総会では、1. 協会賞(2011年度審査決定・2012年度表彰)、2. 研究助成決定報告、3. 協会会務報告、4. 委員会報告、5. 協会関連事項報告等々と様々な報告がなされている。これらの報告内容はこの総会資料に詳細に記されているので、この資料を読むだけでもこの1年間の私立大学図書館協会の活動や他大学の図書館員の活躍の様子を伺い知ることができる。こういったことは、日々の業務の中では目に留まりにくいことであるので、この総会資料は図書館界の活動を俯瞰して見ることのできる有益な資料であろう。

2日目は、研究大会が行われ海外集合研修報告、研究助成発表、国際教養大学中嶋嶺雄学長の講演と続き最後に聖徳大学、明海大学、和光大学の各図書館職員の事例報告があった。

本稿では、その全てを報告することはできないが、これらのプログラムの中の海外集合研修報告および国際教養大学中嶋嶺雄学長の講演について後で報告

したいと考えている。

今振り返って思うに、当大会は昨今の大学および大学図書館を取り巻く厳しい社会情勢を受けて、なごやかな雰囲気の中にも大学図書館の現状を改めて聴講者に問いかける話もあり、身が引き締まるものであった。また、様々な課題をかかえる大学図書館の業務改善のきっかけとなりえる先進的事例の報告もあり有意義なものであった。

2. 開会式

初日の開会式について触れる。開会式で聴くスピーチにはたいてい講演者の訴えたいことがコンパクトにまとめられていて学ぶべきところが多く、私はこういった会合に参加する時は個人的に開会式のスピーチをいつも楽しみにしている。時には開会式のスピーチの内容が、参加したセミナーや研究大会において最も印象深く最後まで記憶に残る内容だったということもある。当大会の開会式のスピーチでもそのような話を拝聴することができた。特に印象深く感じ、私がメモを取った内容を以下に紹介する。

(1) 慶應義塾大学メディアセンター 田村俊作所長

“(当大会のテーマである「個性化の戦略」について触れて) 図書も電子も来館者も非来館者も図書館がサポートするという境界があいまいになった時代だからこそ、各図書館が自らの強みを確立し個性化することが重要と思われる。”

(2) 立教大学図書館 石川巧図書館長

“電子化、資料デジタル化、ラーニングコモンズ、学習アドバイザーといった図書館の最近のサービスは「やさしく、丁寧、至れり尽くせり」だが私は違和感を覚えている。ブレーキも必要なのではないか? 図書館は知性を獲得することの困難さや、知性を得たその先のものを授ける必要もあるのではと思う。

図書館の現状は、連帯ではなく横並びになってい

ないだろうか？予算不足、人材不足を理由に内向きになってはいけないと思う。不足していること、足りないことはバネになるはずである。慶應義塾大学を創立した福沢諭吉が学んだ塾では、塾生にたまたみ1畳しか与えられなかったが、そこから近代の礎が生まれた。私はこの2日間で足りないことは何かを考え抜きたいと思う。”

(3) 文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室 長澤公洋室長

“図書館の機能の見直しが必要と思われる。それは学生が能動的に学習する環境を整えることである。図書館に行っても学習スペースがない、図書館が老朽化していて学生の足が離れる、といったことではいけない。ラーニングコモンズの整備が進んでいる大学図書館を訪問しているが、ラーニングコモンズを進めている図書館は、学生も図書館も活気がある。学生が一日中図書館にいても飽きない図書館を構築することが重要かと思われる。

また、7月に学術部門分科会の報告書をまとめた。日本の情報発信力は脆弱であるという結論に達し、日本のジャーナルの強化を掲げている。中でも機関リポジトリの強化を挙げているが、現在はリポジトリというには内容がともなっていない状態であるので、強化していただきたいと考えている。様々なチャンネルで、大学図書館の魅力をアピールすることが重要と考えられる。海外の研究者が、日本に来たいと思うような状態にしていけないといけない。”

(4) 国立情報学研究所 安達淳副所長

“大学の発信力強化として、機関リポジトリが極めて重要と認識している。ジャイロクラウドという機関リポジトリの構築のためのサービスを開始し、50以上の私大から申し込みがあった。”

3. 研究大会への参加にあたって

この研修に参加するにあたり、私は聴講を楽しみにしていたプログラムが2つあった。1つは2011年度海外集合研修報告・2011年度海外派遣研修報告、もう1つは中嶋嶺雄・国際教養大学学長による講演「国際教養大学の挑戦と図書館」であった。

これらのプログラムを楽しみにしていたのは、この2つの報告・講演の中には、大学図書館の将来像を描くためのヒントがあると考えていたからである。

当研究大会が開催される数日前に、中央教育審議会が「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」という答申を発表した。この答申は新聞等のメディアでも大きく取り上げられたが、「大学は学生の学習時間の実質的な増加・確保を」というのがその趣旨だったと記憶している。

全入時代を迎えて学生の質の低下が懸念されているが、その一方で、グローバル化に対応できる能力をもった人材の育成が急務であると、社会・経済界から要請されている。そうした中で、学生が授業時間以外で主体的に学ぶ仕組み作りを進める大学に、重点的に財政支援を行うという方針が打ち出された。

この中で、文科省が私学補助金を重点的に分配する1つの目安として、大学図書館の24時間開館やラーニングコモンズの設置が挙げられていたことはまだ記憶に新しい。

大学図書館は文科省が求める大学改革の1つの目安とされ、難しい課題をつきつけられたわけであるが、上述の2つのプログラムはその実践例の話であると言える。前者では、中央教育審議会がモデルとしていると思われるアメリカの先進的図書館の調査報告を聞くことができると期待し、後者では、図書館の24時間開館を実践している大学の実態を知ることができると期待した。以下はその2つのプログラムの報告である。

4. 「国際教養大学の挑戦と図書館」(中嶋嶺雄・国際教養大学学長)

講演の内容は講演者の著書である「なぜ、国際教養大学で人材は育つのか」をコンパクトにしたようなものであったが、講演を聴いて改めて中嶋先生の教育にかける志と熱意に強い印象を受けた。

国際教養大学は開校して間もない大学であるが、同大学の卒業生はグローバル社会で活躍できる能力を身に付けた人材であるという高い社会的評価を受けている。

その根拠となるのは、同校の非常に厳しいカリキュラムと学生の学習時間の長さにあるということができそうである。講演で聞いた例をあげると、たとえば、入学生は最初に英語の特別プログラムを履修するが、大学が求めるTOEFLの非常に高いスコアを越えない限り一般教養の科目の履修に進むことができない。また、普段の講義はすべて英語で進めら

れ、アメリカの大学のように、翌日までに7冊もの英語文献を読まなければこなせないような課題が出されるとのことであった。

そういったハードなカリキュラムをこなすために国際教養大学は、図書館を非常に重要視しており、それが図書館の24時間開館につながっているようであった。上述の授業について行くためには国際教養大学の学生は昼夜を問わず学習する必要がある。またハードな課題をこなすためにはレファレンス教育が欠かせないという認識が大学側にあるので、図書館情報調査研究序論という講義が初年度の必須科目とされているとのことであった。このことから図書館が重要視されていることがわかった。

同大学が図書館をこのように重要視している理由には中島先生ご自身がオーストラリア国立大学やカリフォルニア大学サンディエゴ校での客員教授時代に図書館に助けられ、図書館の重要性の認識を深めたというご経験がもとになっているとのことであった。

図書館の24時間開館の現実化にあたっては秋田県知事の反対にあったとのことであった。しかし中島先生自らが直談判に赴き知事からの了解をとりつけたというエピソードを聞き中島先生の教育にかけるとの思いの強さを感じた。

3で述べたとおり、文部科学省は私学補助金の配分において大学の改革度を評価する項目の1つとして図書館の24時間・土日開館を上げているが、今回の講演を聞いていると図書館の24時間開館を実施している私立大学を「改革派」と見る文科省の考えは、手段を目的と取り違えた政策ではないかと思えた。大学の改革度は24時間開館でもって計られるのではなく、国際教養大学にあるような、学生の「学習への切実な思い」を涵養することが実質的な教育の質の向上であると思われる。中島先生の講演を聴く中で、学生の必要性を考慮せずに図書館を24時間開館とするのではなく、先進的事例に学びながら、各大学の教育改革の進捗度に合わせて必要なサービスを展開するのが合理的だと感じた。その先に24時間開館は必要とされるのではないだろうか？

では、図書館が提供すべき必要なサービスとはどのようなものになるのか？それを次の5で紹介したいと思う。

5. 2011年度海外集合研修報告・2011年度海外派遣研修報告

このプログラムは私立大学図書館協会の標記研修に参加した私立大学の図書館員がその研修内容を報告するものである。

今年度の参加者はみな研修先をアメリカの大学図書館としていたため、多数のアメリカの大学図書館の先進的事例を窺い知ることができた。その内容の一部を以下に報告する。

- 月曜日から木曜日まで24時間開館体制としている大学図書館がある。
- 図書館の中庭をカフェとして開放している。
- カフェが大変成功しており、昨年は約50万ドルの収入を得ている。大学図書館の大きな収入源となっている。
- 試験期間のみ24時間開館としている大学図書館がある。
- 館内飲食を可とし、館内のいたるところに分別ゴミ箱の設置している。
- 図書館内のカフェには飲食をとるといった目的以外に、飲食をしながら会話をすることでお互いがリラックスでき有意義な話し合いに発展するという欧米の発想が根ざしている。
- ラーニングコモンズについては充実したICT機器やカフェや販売機といったハード面だけではなく、ライティングセンターやFDセンターやテクニカルレポートやレファレンスカウンターや留学支援といったソフト面での学生へのサポート体制が確立している。
- 館内はQuiet AreasやLimited Talking Areasといった住み分けが行われており、自由に選択可能な学習環境が提供されている。
(より詳細な情報は私立大学図書館協会ホームページの研修報告にて知ることができる。)

このような先行事例は大学教育の質の向上を見据えて、実現可能なところから段階的にサービスを展開するときの参考になると思われる。

6. 閉会式

開会式のスピーチ同様、閉会式のスピーチにおいて印象深く感じ、私がメモを取った内容を以下に紹

介する。

立教大学図書館 石川巧館長

“8月28日付けの朝日新聞によると48%の大学で定員割れを起こしているとのだが、これはとりもなおさず私立大学図書館協会の現状だと思われる。”

“私立大学図書館協会は総会で「生き残りをかけた戦略」というのを検討してきただろうか？大学の現状と館内でのサービスを切り離して論じてはいないだろうか？生き残りのために大学図書館が何をすることができるか？という点を考えていかなければならないと思う。”

慶應義塾大学メディアセンター 田村俊作所長

“図書館は人の総体である。人の本気度によって図書館は変わる。”

7. 当総会・研究大会に参加して

大学生に勉強させなければならないという今の文科省の政策の背景には、国の競争力の低下があり、それは翻ってこの国の未来が大学の教育力にかかっているということの現れだと考えられる。そうした

中で私たち大学図書館職員ができることは学生がモチベーションに突き動かされて図書館にやってきたとき、学生が満足する環境作りを整えておくことである。関西大学図書館は数年前より顧客満足の向上を最重要課題にしてきた。しかしながら、まだまだ十分ではないのが現状である。今回の私立大学図書館総会・研究大会に参加したことで各メディアから聞き及ぶ社会から要求されている大学図書館の姿と、すでにそういった要求に対応している先進的な大学図書館の事例を知り、それらをベンチマークに本学図書館の現状を客観視することができたと思う。この視点を忘れず、今後の業務に取り組んでいく所存である。

以上

参考文献

1. 中嶋嶺雄著「なぜ、国際教養大学で人材は育つのか」祥伝社 2010.12
2. 私立大学図書館協会ホームページ <http://www.jaspul.org/pre/kokusai-cilc/shiryo-old.html#haken> (参照 2012-9-15)

(かとう ひろゆき 図書館事務室)

第14回図書館総合展に参加して

新谷 大二郎

図書館総合展とは「図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、“図書館の今後”について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていく場」(第14回図書館総合展 HP <http://2012.libraryfair.jp/>)である。

その目的のため、図書館総合展では会期中、図書館に関わる様々なフォーラム、プレゼンテーション、ポスターセッション、ブース出展、その他企画が行われた。その参加者も国公私の図書館関係者のみならず、企業関係者、学会関係者と幅広い。後援団体としても、国立国会図書館、国立公文書館、科学技術振興機構、国立情報学研究所などと国内のそうそうたる情報流通関係団体が顔を並べており、図書館情報関係者にとっては非常に重要な全国規模の催しであることがわかる。

筆者が参加したのは会期中の最終日のみだったが、その当日朝の受付窓口の混雑・混交ぶりは他の図書館関連の催しではおそらく目にすることがないほどの凄まじいもので、いっそ壮観であった。

さて、その図書館総合展は今年度で第14回を迎え、その開催日程は以下のとおりであった。

第14回図書館総合展概要

開催日時：2012年11月20日(火)～

11月22日(木)

10:00～18:00

会場：パシフィコ横浜

主催：図書館総合展運営委員会

企画運営：JCCカルチャー・ジャパン

筆者はこのうち最終日である11月22日に参加し、当日開催予定であった3フォーラムに参加した。本研修報告では、その参加したフォーラムのうちの2フォーラム「ディスカバリーサービスとコンテンツプロバイダー(株式会社サンメディア主催)」「マイクロフィルムの劣化について、今、何をすべきか(株)ニチマイ主催)」について、その内容を報告する

こととしたい。

1 ディスカバリーサービスとコンテンツプロバイダー(株式会社サンメディア)

本フォーラムでは、Serials Solutions社(以下、「SS社」という。)の提供するディスカバリーサービス「Summon」にコンテンツ情報を提供する予定の二次資料データベースベンダーと日本語コンテンツ二次資料データベースベンダーとが今後ディスカバリーサービスに期待することや、そうしたベンダーがディスカバリーサービスに参画するに際しての問題点が議論された。

フォーラムの全体的な構成としては、特に資料等は用意されておらず、受講者に自由な発言を促し、フォーラム参加者全員の議論によって内容を作るという受講者参加型のパネルディスカッションという手法が取られ、フォーラム参加者間で議論を深めることにより、現在のディスカバリーサービスの動向及び今後の展開についての理解、認識を高めていこうという趣旨のもとで進められた。現実的には当日参加の受講者が自由に発言して議論を展開することは難しいものがあり、そのようにはならなかったが、そうした前提のもとでパネリストとなったそれぞれのベンダーの担当者が受講者を議論に引き込むようなコンテンツ提供側の現場の肉声を聞かせてくれたのは、大変意義深いものであった。主催者である株式会社サンメディアはフォーラム開催にあたって「このフォーラムがここでしか聞けない話となる」ようにあえて配布資料を作成しなかったとその意図を披歴していたので、その点は図に当たったのではないだろうか。

さて、では具体的にフォーラムの場でどのような議論がなされたのかという話に移りたいのだが、その前に簡単にディスカバリーサービスとはどのようなサービスであるのかについて、復習をしておきたい。「復習」というのは、筆者の属している大学図

書館界では「ディスカバリーサービス」という語句は今や説明不要の常識として認識されていることからこのように言うのであって、本フォーラムに際しても、その語義についてはパネルディスカッションのコーディネーターが簡単に触れただけで、受講者に対して特段の説明が与えられることはなかった。おそらく、それについて不満に思った受講者は少なかつただろうし、筆者も違和感を覚えることはなかった。

しかし、実際のところディスカバリーサービスをすでに導入しているという機関は国内の大学でいうとまだ数少なく（本学でも関心は高く、数年来情報収集だけは行っているが、導入には踏み切れていない）、現実に提供しているサービスとして普遍的なものとは言い難い。にもかかわらず、その語句はすでに周知のものとして、実際に触ってもいないのに議論にはついていくことができるという状況がある。このことから、本学と同様に関係者として関心は高いのだが実際の導入には踏み切れていないという状況にある機関が多々あるという実態が浮き彫りになってくるように思われ、それはそれで興味深いことではあるが、また別の話ということでもあろうか。

そのディスカバリーサービスであるが、その語義は多々提示されている。「その導入機関の内外から集めたメタデータやフルテキストをもとに事前に作成した統合インデックスを単一の検索ボックスから検索できるようにしたサービス」（「カレントアウェアネス」no.210 E1266）、「図書館が提供する様々なリソースを同一のインターフェイスで検索できるサービスのこと」（文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究基盤部会 学術情報基盤作業部会 大学図書館の整備について（審議まとめ）：変革する大学にあって求められる大学図書館像 用語解説 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301655.htm）などであるが、定義はまだ定まっていないようである。

また、ディスカバリーサービスはNGC（Next Generation Catalog：次世代 OPAC）と WSD（Web Scale Discovery：ウェブスケールディスカバリ）のいずれもを指す言葉としても扱われているため、さらにその用語の扱いは複雑になっている。筆者は定義としては最初に例に挙げたそれがもっとも簡明であろうと考えるため、そのようなサービスとして認識している。かつ、本フォーラムはディスカバリーサービスについての議論とは言っても、それは SS

社の提供する Summon についてのそれを意味していたため、本報告では以降の「ディスカバリーサービス」という語句は Summon がそれであるところの WSD を意味するものとして扱うものとする。

では、本報告における「ディスカバリーサービス」という語句について以上の前提を踏まえた上で、議論の内容の説明に移りたい。

まず、パネリストとして参加した主に国内コンテンツを扱う二次資料データベースベンダーからは、ディスカバリーサービスに参画するにあたっての二次資料データベースベンダーから見た障壁、問題点が挙げられた。

ディスカバリーサービスに参画することがクライアントおよび利用者に期待され、かつその敷居が低いのは当然一次資料を有するベンダーであり、電子ジャーナルベンダーや海外一次資料データベースベンダーにおいてその展開が活発である。Summon でいえば、大手出版社として Elsevier、Springer、Taylor & Francis、Wiley、学会系出版社として ACM、IOP、AIP などがコンテンツプロバイダーとして（もしくはコンテンツサポート対象として）参画しているという。対して、二次資料データベースベンダーについてはどうかというと、Web of Science、Econlit、Sociological Abstracts、MLA といった重要なデータベースのコンテンツはサポートされているものの、SS 社の Summon の案内資料を見るかぎりではやはり一次資料の提供元との提携が多数と思われ、かつ、その案内資料での扱いも一次資料を主としているように見える。

しかし、二次資料データベースについて利用者からの需要がないかという点、そうではないであろう。ディスカバリーサービスを通じて単一の窓口で二次資料を検索できることは一次資料にたどり着くまでの検索の手間をさらに軽減する可能性を高めることになるかもしれない、それは利用者にとって確かなメリットである。むしろ、二次資料データベースについてはそのコンテンツがディスカバリーサービスに提供されたなら、その検索結果もしくは書誌情報そのものの内容が元のデータベースで提供されているそれと完全には一致しないにせよ、利用者としてはその内容で満足いくものであれば、そこで検索行動を完了させることができ、これは学習・研究のための多大な効率化につながる事が予想される。

ただ、このディスカバリーサービスの中で利用者からの検索行動を完了させることができるというのが、

二次資料データベースベンダーにとっては、ディスカバリーサービスに参画するにあたってのうまみともなるし、考慮のしどころともなるとのことであった。それは、その二次資料データベースのコンテンツをディスカバリーサービスに提供することにより、そのデータベースそれ自体がディスカバリーサービスの中に埋没し、利用されなくなるのではないかという危惧があるためである。

一次資料データベースベンダーに比べて二次資料データベースベンダーがディスカバリーサービスへの参画に慎重にならざるを得ないのは、そうした理由によるものであるという。しかし、それを上回る単一窓口検索からのアクセス数増加によるディスカバリーサービス参画に伴うデータベースの認知度向上と契約拡大への期待があり、それが本フォーラム参加の二次資料データベースベンダーの Summon への参画の決め手になったという。そして、これは当該ベンダーに特別な事情ではなく、他の二次資料データベースベンダーにも同様に当てはまることであり、そのジレンマに対してどのような判断を下すかによって、そのベンダーのディスカバリーサービス参画への姿勢は決まっていくだろうとのことであった。

さらに、このベンダーはそうして参画したからといってそれがそのまま各ベンダーの膝元で提供されるデータベースが使われなくなるということに結び付くというわけではないという見解を示した。そのように言うのは、ディスカバリーサービスでは実現できない検索機能等の特色・付加価値からそのデータベース自体の存在意義を明示することができれば、利用実績の面についても相乗効果を得ることが可能だろうからということであった。

この議論から図書館が考えるべきことは何だろうか。図書館としては、検索窓口が単一化されていればいるほど利用者の利便性を向上させることができるのは確かなことである。特に国内の大学図書館では、今や特定の二次資料やデータベースの扱いや検索方法に習熟し、それを伝えられる能力を身に着けることよりも、利用者自身での解決を可能にさせる簡明な検索環境を提供することの方に重点が置かれる。よって、図書館としては乱立するデータベースのそれぞれのポリシーに通暁することではなく、それらをどのように統一して利用者に提供するかを考えることに注力する必要がある。それは図書館では「何」があって、「どこで」「どのように」利用者に

提供するのかを考えるだけにしておくということである。それを踏まえてディスカバリーサービスを利用するにあたって図書館が考慮しておくべきこととしては、二次資料データベースベンダーが抱えるジレンマを理解しつつも参画を促す方向に各ベンダーに働きかける必要があるということと、それでもなお、特別の機能を有することもあることから、提供元のデータベースそれ自体を無視することもできないということ認識しておくことだと言えるだろうか。

次に本フォーラム参加の日本語コンテンツ一次資料データベースベンダーからは、そのベンダーとしてはディスカバリーサービスへの参画は積極的に行っていきたいということで、今後も提供コンテンツの拡大を図っていきたいという積極的な姿勢が示された。やはり一次資料を提供するベンダーは、その参画の仕方にもよるが、商品となる資料そのものを提供するわけではないので、二次資料データベースベンダーに比べると参画へのハードルは低く感じるとのことであった。ただし、それは当該ベンダーが印象として感じるだけのもので、他の日本語コンテンツベンダーの動向について実際に調査を行ったわけではなく、確たることは言えないという留保がつけられた。

一次資料データベースベンダーから見たディスカバリーサービスへの参画に際しての問題点として挙げられたのは、ディスカバリーサービスからの検索が行われるようになれば、単純にアクセス数が増加することが予想され、それによって現行のアクセス数制限による購読モデルではクライアントの要望に応えられないようになることが想定されるため、現実的な価格帯での同時アクセス無制限の購読モデルの策定が必要となるということであった。

購読モデルの問題は、これもまたこのベンダーだけの特別な問題ではなく、日本語コンテンツベンダーに共通の問題であろうと思われる。特にディスカバリーサービスや統合検索サービス参画へのクライアント・利用者双方からの需要が総じて高い新聞コンテンツを含むデータベースについては、その早急な解決、つまり同時アクセス無制限かつ現実的な価格帯での購読モデルの策定が急がれるものと考えている。アクセス数制限の問題はむしろ日本のコンテンツベンダー事情、巨大なプラットフォームになり得るベンダーの不在によるところが大きいのもかもしれないが、そうした事情の上に技術的な限界を有した状態での

商業活動はすでに国内では頭打ちになっているはずである。よって、コンテンツ提供の世界への拡大（それはディスカバリーサービスへの参画も含んでもいいだろう）を考えた場合、日本語一次資料データベースベンダーは本フォーラム参加ベンダーと同様の問題に直面するはずで、そうすれば日本語一次資料データベース利用にかかる旧来からの一番の問題であった同時アクセス数制限という購読モデルの硬直性が打破されることが期待される。その動きには、ディスカバリーサービスを導入するしないにかかわらず、図書館として注目してしかるべきであろう。

2 マイクロフィルムの劣化について、今、何をすべきか（株ニチマイ）

本フォーラムでは、劣化マイクロ資料の救済方法について、従来複製不可能だったフィルムの複製を可能にした新技術の開発と、そうした資料が発生した場合の実際的な対処の方法が紹介された。紹介は新技術の開発については(株)吉岡映像代表取締役吉岡博行氏、実際的な対処の方法については(株)ニチマイ取締役瀬田峰雄氏により行われた。

まず、新技術の開発について、これは吉岡映像の開発した手法で、旧来はフィルムの歪みが著しい資料については複製の作成が困難であったのを、特別な技術により複製の前処理として平面化処理を行うことで、複製の作成を可能にしたということであった。これにより、従来であれば、折れ、歪みが激しく複製を断念せざるを得なかったようなフィルムが、フィルム自体の耐久性がその平面化処理に耐えるものであったなら、大抵の場合は複製の作成が可能になったとのことである。

次に、劣化マイクロの実際的な対処については、ポイントはとにかく現状を把握することとであった。フィルムの劣化状況の段階ごとの保存方法、対処方法についてはすでに国立国会図書館やJIIMA（社団法人日本画像情報マネジメント協会）において基準が示されており、それは専門業者から見ても適正なものであるとのことで、そのことから、現状の調査さえ行えば、そこから取りうる対処は自ずと決まっていくということであった。

図書館としてはそれら基準を参考に対象の調査を行い、その資料の劣化段階のそれぞれに応じて、適切な処置をとっていくという方法が、最も適当な対

処法となるであろう。調査方法の参考資料としては、特にJIIMAがそのサイト上で提供している「マイクロフィルムの長期保存 劣化とその対策」が必要十分な情報を記述しており、大変に役立つものとなっている。（JIIMA Communication Plaza マイクロフィルムに関して マイクロフィルムの長期保存—劣化とその対策—http://www.jiima.or.jp/micro/pdf/rekkat_aisaku.ppd）

さらに、フォーラム中の講義で特に参考になった点は、一度劣化をきたし、酢酸臭を発するようになったフィルムは2度と元の状態に戻ることはなく、そうなれば根本的な対処方法は廃棄か複製かの2つに1つであるということである。リールの巻き返しによる放散や吸着材による対処は延命処置にしかないという。

この時、廃棄か複製かという点に関して図書館からの観点を交えれば、複製にかかる諸々のコストを考慮した場合、買い直した方が廉価ということであれば再購入という形を取ることも考えられるのではないかという意見があると思われる。これについてはフォーラムの中では特に言及されることはなかったが、私見からすると、危険な判断であろうと思料する。なぜなら、購入という手段で、かつ劣化をきたしているような古いマイクロフィルムを購入するといった場合には、再度同様の素材の現物が納品されてきて、同じことの繰り返しになる可能性が否めないからである。素材指定を行った上で発注を行うということは不可能ではないにせよ、フィルムの専門業者ではなく版元を相手にする以上、確実に期することは難しいであろう。

そうした観点からしても、やはり劣化マイクロフィルムの救済方法としては、資料それぞれの版元との交渉を行う必要はあろうが、本フォーラムでの示唆のとおり、必要であれば修復を行い、所蔵フィルムから複製するという手順が最も適当であろうと思われる。かつ、現在の技術ではフィルムの複製の際に同時にデジタルデータの作成を行うことも可能だそうなので、次に別の問題が発生した時のために、出版社からフィルムの複製を行うためにかぎるといふ留保つきでデジタルデータの作成の許可をもらっておくによりよいであろう。

（しんたに だいじろう 図書館事務局）

平成23年度図書館活動報告

1 図書委員会

第1回：平成23年4月20日(水)

- 審議事項（平成22年度図書費決算について、平成23年度図書費予算について）
- 報告事項（平成23年度図書委員会開催予定日について、平成22年度購入基本図書について、選書協力依頼について）

第2回：平成23年5月18日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の選定の手続きについて）
- 報告事項（インフォメーションシステム「個人伝言」によるお知らせ（教職員向け）について）

第3回：平成23年6月15日(水)

- 審議事項（基本図書購入申請書（様式）について）
- 報告事項（加除式資料の除却について）

第4回：平成23年8月3日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の購入希望について、基本図書購入申請書（様式）について、各図書館開館時間等の変更について）
- 報告事項（文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択に伴う総合図書館地下2階閲覧室の期限付き貸与について、夏以降の総合図書館の改修工事等について）

第5回：平成23年9月21日(水)

- 審議事項（逐次刊行物等の購入希望について、基本図書購入申請書（様式）について、平成24年度図書費予算の申請について）
- 報告事項（関西大学自己点検・評価委員会大学部門委員会委員長に提出した図書館自己点検・評価報告書の原稿について、科学雑誌『Nature』及び『Science』の電子ジャーナルへの切替えについて）
- 懇談事項（『「図書館のありかた検討プロジェクト」における検討事項の報告について』について）

第6回：平成23年11月16日(水)

- 審議事項（電子ジャーナル等バックファイルの購入について）
- 報告事項（平成24年度基本図書の推薦について、逐次刊行物等の購入希望について、総合図書館風除室設置工事について、横断検索 KOALA Plus の公開について、自己点検・評価報告書リライト原稿案について）
- その他（会計検査院による実地検査の対応について）

第7回：平成23年12月21日(水)

- 審議事項（平成24年度図書館開館日程について、SpringerLink バックファイル購入について）

- 報告事項（平成23年度図書費予算執行状況について、旧事務室の運用について、平成24年度関西大学図書館市民利用の募集について）
- その他（空調改修工事に伴う空調の停止について）

第8回：平成24年2月15日(水)

- 審議事項（平成24年度基本図書の選定について、図書館ガイダンスについて、「関西大学図書館利用規程」の一部改正について）
- 報告事項（平成23年度図書費予算執行状況について、高額資料の購入について、堺キャンパス図書館における校友および協定大学利用登録者への利用開始について、EBSCOhost オンラインデータベース Business Source Complete + EconLit with Full Text の利用提供開始について）
- その他（高槻図書室への入館機設置について、平成24年度新入生指導行事における図書館案内ビデオの放映について）

第9回：平成24年3月21日(水)

- 審議事項（大阪大学附属図書館との協定について）
- 報告事項（平成23年度図書費予算執行状況について、電子ジャーナルポータルへの切替えについて）

2 図書館自己点検・評価委員会

第1回：平成23年6月15日(水)

- 審議事項（2011年度自己点検・評価報告書（認証評価用）の作成について、今後の日程案について）

第2回：平成23年8月3日(水)

- 審議事項（2011年度自己点検・評価報告書（認証評価用）の原稿について、今後の日程について）
- 報告事項（原稿執筆担当一覧について）

3 図書館諸会議

図書委員会開催の前週水曜日に図書館長と図書館職員で「図書館会議」を開催し、次回図書委員会事項等を協議している。また、毎週火曜日に図書館職員による「図書館運営会議」を開催している。

4 関西四大学図書館長会議

開催日：平成23年9月28日(水)

場所：同志社大学 今出川キャンパス ハリス理化学館 2階会議室

出席者：関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学

(1) 報告事項

- ①関西四大学図書館連絡会（2011.7.8 開催）について
- ②関西四大学図書館相互利用担当者会（2011.9.28 開催）について
- ③関西四大学図書館職員研修会（2011.11.11 開催）について

(2) 近況報告・情報交換

- ①2011 年度図書館図書資料費予算について
- ②電子情報の利用および発信について
- ③利用者サービスについて
- ④課題および将来計画について
- ⑤その他

(3) その他

5 私立大学図書館協会

関西大学図書館が私立大学図書館協会の監事校に就任した。

任期 平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

6 セミナー・講習会等の開催

図書館利用者教育の一環として、各種ガイダンスを実施した。

○「初級者向けガイダンス」

総合図書館をこれから利用する新入生のクラスを対象に総合図書館の使い方を説明した。

- ・実施期間：春学期 4 月 12 日(火)～6 月 30 日(木)
秋学期 9 月 20 日(火)～11 月 30 日(木)

○「文献の探し方ガイダンス」

雑誌や新聞に掲載される論文や記事の検索を中心に、定番の各種データベースやオンラインジャーナルの利用方法を説明した。

- ・実施期間：春学期 4 月 5 日(火)～6 月 30 日(木)
秋学期 9 月 20 日(火)～11 月 30 日(木)

○「専門分野型ガイダンス」

「文献の探し方ガイダンス」では取り上げない特定の専門分野のデータベース（例：判例データベース、理工系学部用のデータベース等）を使って文献を探すガイダンスを実施した。

- ・実施期間：春学期 5 月 23 日(月)～6 月 30 日(木)
秋学期 9 月 20 日(火)～11 月 30 日(木)

○自由参加型文献の探し方ガイダンス

自由参加型によるコース別の文献の探し方ガイダンスを実施した。

・内容

- A コース：文系学部向け
- B コース：法学部向け
- C コース：理工系学部向け

- ・実施期間：5 月 14 日(土)～6 月 25 日(土)の土曜日に実施

7 展示会

於：総合図書館展示室

○特別展「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」

- (1) 会期：平成 23 年 4 月 1 日(金)～5 月 15 日(日)
- (2) 来場者数：687 人

※4 月 3 日(日)と 5 月 15 日(日)は休館日のため、展示室への入場者の数は計数せず

○日・EU フレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのメガネ男子」

- (1) 会期：平成 23 年 5 月 20 日(金)～6 月 3 日(金)
- (2) 来場者数：1,397 人

8 平成 23 年度文部科学省私立大学等研究設備整備費等補助

図書館関係の申請については、次の 2 件が採択された。

(1) 特別設備

CIS Microfiche Library 2003-2009

(2) 特定図書

『マニラ・ブレティン』紙

9 図書館の刊行物等

- (1) 『図書館利用案内』2011 年版を編集発行
- (2) 『ガイドブック 文献のさがし方から入手まで』2011 年度版（増補版）を発行
- (3) 本誌第 16 号を発行し、図書館ウェブサイトにて公開（第 15 号より冊子による刊行は中止した）

10 総合図書館のリニューアル工事について

平成 22 年度と 23 年度の 2 カ年で次のとおり総合図書館のリニューアル工事を行った。

- (1) 3 階図書館ホールを「多目的閲覧室」（40 席）に改修し、ガイダンス時期にはガイダンス会場として、それ以外の時期にはグループ閲覧室として使用している。
- (2) 1 階自然科学系雑誌コーナーを縮小して人文・社会系雑誌コーナーに集約し、その跡地に閲覧席を設置した（64 席増、ただし、人文・社会系雑誌コーナーで 10 席減）。
- (3) メインカウンターを拡張してレファレンスカウンターを統合し、レファレンスカウンター跡地に閲覧席を設置した（52 席増）。
- (4) 事務室（図書館長室、学術情報事務局長室を含む）を旧情報処理センター部分に移設し、その跡地を閲覧室（252 席）に改修した。
- (5) 貴重書庫、地下書庫を含め、空調設備を更新した。
- (6) テレリフトを撤去し、小荷物昇降機を B2 から 2 階の間に設置し、併せて 2 階開架カウンターを改修し

- た。
- (7) マイクロ資料閲覧コーナー、インターネット・CD-ROM 検索コーナーをメインカウンター前に移設した（48 席減）。

結果として、リニューアル工事により、平成 24 年 4 月 1 日現在の総合図書館の学生閲覧室座席数は 2,248 となり、収容定員に対して 1 割以上の座席数を確保できた。

図書館展示会報告

平成 23 年度の展示は、以下のとおり総合図書館 1 階展示室において開催した。

特別展

「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」

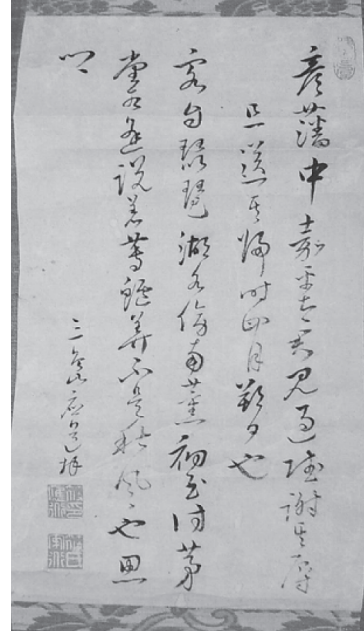
平成 23 年 4 月 1 日(金)～ 5 月 15 日(日)

大坂は、江戸時代には物流、商業の中心地として栄えたが、学問や文芸の分野においても独自の発展を遂げ、多くの文人・学者を輩出した。

希代の浮世草子作者である井原西鶴や、大坂天満宮連歌所宗匠として活躍し、その後俳人となった西山宗因、浄瑠璃の大成者であり、シェイクスピアにも比肩しうる劇詩人と言われる大坂竹本座の近松門左衛門、かの名著『万葉代匠記』を著し、実証的古典研究の方法を確立した契沖など、大坂でその才能をいかんなく発揮し、後世に多大な影響を与えた文人・学者は枚挙にいとまがない。

今展示では、大坂の私塾である懐徳堂や梅花社、混沌社、適塾、泊園書院に関わる人々や、国学者、戯作者、俳人など多くの分野から文人・学者を取り上げた。

西鶴の『松に鶴図』、宗因の『賦御何連歌』、近松の『心中天の網島』の他、日本初の顕微鏡観察記録と言われる中井履軒の『顕微鏡記』、実学啓蒙書の大著である山片蟠桃の『夢ノ代』など、44 点の資料を展示した。



「篠崎三島書」



展示室



山片蟠桃『夢ノ代』

※特別展は、図書館展示計画委員会において定期的に企画、開催してきたが、今後は、必要に応じて随時開催することとなった。

日・EUフレンドシップウィーク展示

「ヨーロッパのメガネ男子」

平成 23 年 5 月 20 日(金)～ 6 月 3 日(金)

概要

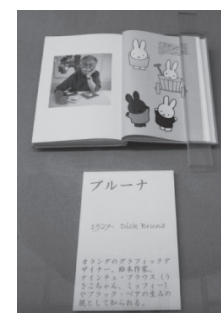
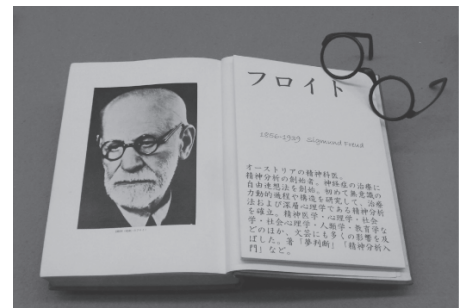
「日・EUフレンドシップウィーク」は、日本における欧州連合（= European Union 以下、EU）の認知度向上を目的として、毎年5月9日の「ヨーロッパ・デー」を中心に、駐日欧州連合代表部の後援のもと、全国のEU情報センター（= European Info 以下、EUi）がさまざまな催しを実施するものである。本学もEUならびにEUiを学内外に広報するべく、ヨーロッパにちなんだ展示を総合図書館1階展示室において開催した。

展示内容

欧州連合加盟国（もしくはその前身国）出身のメガネをかけている偉人の写真や肖像を蔵書より集め、人物紹介を添えて展示した。紹介した人物は、コルビュジェやサルトル、ジョン・レノンなど総勢29名。展示室入口にはブックスタンドを配置。EUi資料を並べ、気軽に手に取れるようにした。そのほか、EUiのポスターや欧州連合の地図などを掲示した。



展示室



資料展示（上）フロイト（下）ブルーナ

図書館出版物案内

1 冊子目録等

- 細江文庫目録……450円
わが国英語学界の重鎮、故細江逸記の旧蔵書目録。
- 大阪関係資料目録……650円
昭和35年1月1日現在所蔵の大阪府、市関係の図書・地図・近世文書・堂島文書・芝居番付・明治中期広告の総合目録。
- 生田文庫・頼原文庫目録……非売品
在野の万葉集研究家故生田耕一の旧蔵書の一部と、故頼原退蔵旧蔵書の目録。
- 吉田文庫目録……1,300円
元トルコ駐在特命全権大使であった故吉田伊三郎の旧蔵書目録。
- 岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録……1,500円
江戸時代末期の国学者岩崎美隆の旧蔵書目録と、幕末の漢学者五弓雪窓の旧蔵書目録。
- 増田涉文庫目録……6,000円
わが国魯迅研究の第一人者であった元文学部教授故増田涉の旧蔵書目録。魯迅の全著作の初版本他。
- 矢口文庫目録……2,700円
本学の元学長で、イギリス経済史学界の重鎮であった故矢口孝次郎の旧蔵書目録。
- 極東国際軍事裁判資料目録……非売品
極東国際軍事裁判における検察側及び弁護側提出の書証と関係資料の目録。
- 泊園文庫蔵書書目ならびに索引の部……品切
幕末の浪速私学「泊園書院」の旧蔵書目録。
- 近世文書目録 その一……1,350円、その二……2,000円
大阪周辺の庄屋文書を核に、ほぼ全国各地の近世文書を加えたコレクション。
- 大阪文芸資料目録……3,500円
明治以降の、大阪にゆかりのある作家・画家・芸能人などの作品や大阪を題材とした作品などの本学所蔵コレクションの目録。
- 内藤文庫漢籍古刊・古鈔目録……2,500円
内藤湖南・伯健父子旧蔵書の一部善本類の目録。
- 内藤文庫リスト No.1～No.5 ……非売品(ただし、No.1は在庫なし)
- 芝居番付目録……8,000円
大阪を中心とする宝暦から昭和に至る歌舞伎、浄瑠璃等の芝居番付約6,500点の目録。
- 大坂画壇目録……品切
- 摂津国嶋上郡高浜村西田家文書目録……非売品
- 河内国丹北郡六反村谷川家文書目録……非売品
- 摂津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録……非売品

- 和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録……非売品

2 CD-ROM版

- 内藤文庫目録 KUL-bijou ……非売品

3 図書館出版図書

- 江戸書状(全三巻)
旗本鈴木家と庄屋西田家との往復書簡集
第一巻(天保七年から弘化四年) ……品切
第二巻(嘉永元年から安政六年) ……品切
第三巻(万延元年から明治元年) ……品切
- おおさか文藝書画展 図録……2,000円
平成6年9月、図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念として開催した「おおさか文藝書画展-近世から近代へ-」の図録
- 展示目録 大坂の書と画と本……1,000円
- 関西大学図書館影印叢書 第一期 全十巻
第一巻 『古今序聞書』 ……15,750円
解題 片桐洋一
第二巻 『能面図』 ……31,602円
解題 関屋俊彦
第三巻 『勸進能并狂言尽番組』 ……22,428円
解題 関屋俊彦
第四巻 『近世俳書集』 ……13,253円
解題 乾 裕幸
第五巻 『浮世草子集』 ……29,400円
解題 山本 卓
第六巻 『西川祐信集』 ……51,450円(上・下巻セット)
解題 山本 卓
第七巻 『青本黒本集』 ……25,200円
解題 神楽岡幼子
第八巻 文学雑誌『葦分船』 ……24,150円
解題 浦西和彦
第九巻 『えんぴつ』 ……66,150円(上・下巻セット)
解題 吉田永宏
第十巻 『日本文学報国会・大日本言論報国会設立関係書類』 ……31,500円(上・下巻セット)
解題 浦西和彦

〈影印叢書のパンフレットをご希望の方は、図書館事務室へお申し出ください〉

平成23年度に制定及び改正のあった図書館諸規程

図書館利用規程

平成 24 年 4 月 1 日改正分

関西大学図書館利用規程改正案の新旧対照表

現行	摘要	改正
<p>関西大学図書館利用規程 昭和 60 年 2 月 8 日制定</p> <p>第 1 章 総則</p> <p>第 1 条 <省略> (休館日)</p> <p>第 2 条 図書館の休館日は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 第 1 土曜日 (2) 本大学記念日 (3) 図書の整備、現物照合等に必要期間 (4) その他別に定める日</p> <p>2 <省略></p> <p>第 3 条～第 5 条 <省略></p> <p>(利用券の交付)</p> <p>第 6 条 第 4 条第 1 項に規定する利用者には、次の区分により利用券を交付する。</p> <p>(1) 第 4 条第 1 項第 1 号に規定する者 職員利用券 (2) 第 4 条第 1 項第 2 号に規定する者 学生利用券 (3) 第 4 条第 1 項第 3 号に規定する者 校友利用券 (4) 第 4 条第 1 項第 4 号に規定する者 相互利用券 (5) 第 4 条第 1 項第 5 号に規定する者 優待利用券又は特別利用券</p> <p>2 <省略> (利用の種類)</p> <p>第 7 条 前条により利用券を交付した者には、図書の閲覧、貸出その他の図書館サービスを行う。ただし、特別利用券を交付した者には、図書の貸出サービスを制限することができる。</p> <p>第 8 条 <省略></p> <p>第 2 章 閲覧 (閲覧サービス)</p> <p>第 9 条 <省略></p> <p>2 書庫内図書の閲覧を希望する者は、所定の申込書に利用券を添えて係に提出しなければならない。この場合において、第 13 条に定める入庫検索者については、申込書を省略することができる。</p> <p>3 <省略></p> <p>第 10 条～第 13 条 <省略></p> <p>第 3 章 貸出 (貸出サービス)</p> <p>第 14 条 <省略></p> <p>2 書庫内図書の貸出を希望する者は、所定の申込書に利用券を添えて係に提出しなければならない。この場合において、前条に定める入庫検索者については、申込書を省略することができる。</p>	<p>休館日の見直しによる修正 号を削る 以下号繰上げ</p> <p>図書館発行の利用券交付対象者を明示するため修正 号を削る 号を削る 以下号繰上げ</p> <p>利用に係る前提条件を明示するため修正</p> <p>文言の一部修正</p> <p>文言の一部修正</p>	<p>関西大学図書館利用規程 昭和 60 年 2 月 8 日制定</p> <p>第 1 章 総則</p> <p>第 1 条 <省略> (休館日)</p> <p>第 2 条 図書館の休館日は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 本大学記念日 (2) 図書の整備、現物照合等に必要期間 (3) その他別に定める日</p> <p>2 <省略></p> <p>第 3 条～第 5 条 <省略></p> <p>(利用券の交付)</p> <p>第 6 条 第 4 条第 1 項第 3 号から第 5 号に規定する利用者には、次の区分により利用券を交付する。</p> <p>(1) 第 4 条第 1 項第 3 号に規定する者 校友利用券 (2) 第 4 条第 1 項第 4 号に規定する者 相互利用券 (3) 第 4 条第 1 項第 5 号に規定する者 優待利用券又は特別利用券</p> <p>2 <省略> (利用の種類)</p> <p>第 7 条 利用券、教職員証、入退出カード又は学生証(以下、「利用券等」という。)を持参した者には、図書の閲覧、貸出その他の図書館サービスを行う。ただし、特別利用券を交付した者には、図書の貸出サービスを制限することができる。</p> <p>第 8 条 <省略></p> <p>第 2 章 閲覧 (閲覧サービス)</p> <p>第 9 条 <省略></p> <p>2 書庫内図書の閲覧を希望する者は、所定の申込書に利用券等を添えて係に提出しなければならない。この場合において、第 13 条に定める入庫検索者については、申込書の提出を省略することができる。</p> <p>3 <省略></p> <p>第 10 条～第 13 条 <省略></p> <p>第 3 章 貸出 (貸出サービス)</p> <p>第 14 条 <省略></p> <p>2 書庫内図書の貸出を希望する者は、所定の申込書に利用券等を添えて係に提出しなければならない。この場合において、前条に定める入庫検索者については、申込書の提出を省略することができる。</p>

<p>3 開架閲覧室備付図書の貸出を希望する者は、当該図書に利用券を添えて係に提出しなければならない。この場合において、貸出冊数及び期限は、次条第1項第3号に規定するところによる。</p>		<p>3 開架閲覧室備付図書の貸出を希望する者は、当該図書に利用券等を添えて係に提出しなければならない。この場合において、貸出冊数及び期限は、次条第1項第3号に規定するところによる。</p>
<p>第15条～第19条 <省略></p>		<p>第15条～第19条 <省略></p>
<p>(学外団体貸出) 第20条 官公庁、学校、会社及びその他諸団体が、図書の貸出を希望するときは、図書館長の許可を受けた場合に限り、認めることができる。この場合において許可する図書は第8条第1号のものに限る。</p>	<p>実態に合わせて条文の一部削除</p>	<p>(学外団体貸出) 第20条 官公庁、学校、会社及びその他諸団体が、図書の貸出を希望するときは、図書館長の許可を受けた場合に限り、認めることができる。</p>
<p>2 前項に規定する図書は、1団体につき貸出冊数は5冊以内とし、期限は2週間以内とする。</p>	<p>文言の追加</p>	<p>2 前項に規定する図書は、<u>原則として</u>1団体につき貸出冊数は5冊以内とし、期限は2週間以内とする。</p>
<p>第21条 <省略></p>		<p>第21条 <省略></p>
<p>第4章 複写 (複写サービス)</p>		<p>第4章 複写 (複写サービス)</p>
<p>第22条 <省略></p>		<p>第22条 <省略></p>
<p>2 前項に規定する複写は、図書の一部分を1人につき1部行うことができる。ただし、発行後相当期間を経過した逐次刊行物に掲載された個々の著作物を複写するときは、その全部について行うことができる。</p>	<p>文言の追加</p>	<p>2 前項に規定する複写は、<u>著作権法第31条の規定により</u>図書の一部分を1人につき1部行うことができる。ただし、発行後相当期間を経過した逐次刊行物に掲載された個々の著作物を複写するときは、その全部について行うことができる。</p>
<p>3 前項に規定する複写を希望する者は、<u>所定の申込手続により、係に申し込まなければならない。</u></p>	<p>条文の一部修正</p>	<p>3 前項に規定する複写を希望する者は、<u>所定の手続をしなければならぬ。</u></p>
<p>第23条～第24条 <省略></p>		<p>第23条～第24条 <省略></p>
<p>第5章 レファレンス</p>		<p>第5章 レファレンス</p>
<p>第25条～第30条 <省略></p>		<p>第25条～第30条 <省略></p>
<p>(端末機の操作)</p>		
<p>第31条 端末機は、利用者との合意に基づいて、<u>原則として係員が操作する。</u></p>	<p>条の削除</p>	<p>第31条 削除</p>
<p>2 前項の規定による検索内容については、<u>利用者の責任とする。</u> (情報検索の利用料金)</p>		<p>(情報検索の利用料金)</p>
<p>第32条 オンライン情報検索の利用に伴う外部データベースの専用回線使用料金、検索料金等は、利用者の負担とする。<u>ただし、公衆電話料金は、大学の負担とする。</u></p>	<p>条文の一部削除</p>	<p>第32条 オンライン情報検索の利用に伴う外部データベースの検索料金等は、利用者の負担とする。</p>
<p>2 <省略></p>		<p>2 <省略></p>
<p>第6章 図書館間相互利用 (相互利用サービス)</p>		<p>第6章 図書館間相互利用 (相互利用サービス)</p>
<p>第33条 <省略></p>		<p>第33条 <省略></p>
<p>2 前項の図書館間相互利用サービスを希望する者は、<u>所定の申込書により、レファレンスカウンターに申し込まなければならない。</u></p>	<p>4館体制による文言の修正</p>	<p>2 前項の図書館間相互利用サービスを希望する者は、<u>所定の手続をしなければならぬ。</u></p>
<p>第34条～第35条 <省略></p>		<p>第34条～第35条 <省略></p>
<p>第7章 図書館施設の利用</p>		<p>第7章 図書館施設の利用</p>
<p>第36条 <省略></p>		<p>第36条 <省略></p>
<p>(小閲覧室)</p>		<p>(小閲覧室)</p>
<p>第37条 小閲覧室の利用は、次のとおりとする。</p>		<p>第37条 小閲覧室の利用は、次のとおりとする。</p>
<p>(1) 地階の小閲覧室は、大学の教育職員、大学院学生及び図書館長の許可を受けた者に限り、利用することができる。</p>	<p>4館体制による文言の修正</p>	<p>(1) <u>総合図書館</u>地階の小閲覧室は、大学の教育職員、大学院学生及び図書館長の許可を受けた者に限り、利用することができる。</p>
<p>(2) 1階の小閲覧室は、大学の教育職員に限り、利用することができる。</p>		<p>(2) <u>総合図書館</u>1階の小閲覧室は、大学の教育職員に限り、利用することができる。</p>
<p>(3) 2階の小閲覧室は、グループ研究討議のために利用することができる。</p>		<p>(3) <u>総合図書館</u>2階の小閲覧室は、グループ研究討議のために利用することができる。</p>
<p>(4) 3階の小閲覧室は、図書の利用を伴うグループ研究討議のために利用することができる。</p>		<p>(4) <u>総合図書館</u>3階、<u>高槻図書室及び堺キャンパス図書館</u>の小閲覧室は、図書の利用を伴うグループ研究討議のために利用することができる。</p>
<p>2 前項第4号の利用については、別に定める。</p>		<p>2 前項第4号の利用については、別に定める。</p>

平成23年度に制定及び改正のあった図書館諸規程

<p>第38条～第39条 <省略></p> <p>(図書館ホール)</p> <p>第40条 <u>図書館ホールは、図書館の主催する利用案内、各種研修会、講演会等のために利用するものとする。</u></p> <p>2 前項に規定する利用については、別に定める。</p> <p>第8章 雑則</p> <p>第41条～第42条 <省略></p>	<p>条の削除</p> <p>改廃規定の追加</p> <p>附則の追加</p>	<p>第38条～第39条 <省略></p> <p>第40条 削除</p> <p>第8章 雑則</p> <p>第41条～第42条 <省略></p> <p>(規程の改廃)</p> <p>第43条 <u>本規程の改廃は、図書委員会の議を経て行う。</u></p> <p>附 則</p> <p><u>この規程(改正)は、平成24年4月1日から施行する。</u></p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

『図書館フォーラム』投稿要項

制定 平成 8 年 3 月 31 日

『大学図書館研究』の原稿募集要項に準じて、概要を次のように定める。

(1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

(2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

(3) 取 載

寄稿原稿が予定の紙幅を超える件数があったときは、取載順序を図書館長が決める。

(4) 謝 礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼を贈呈する。ただし、抜刷は提供しない。

(5) 投稿先

関西大学図書館事務室（TEL 06-6368-1157）
電子メール（lib-ent@ml.kandai.jp）

(6) 執筆要領

- ア 本誌 1 ページにつき 2,070 字相当とする。
- イ 原稿は横書き、電子メールまたはフロッピーでの提出を原則とし、手書き原稿も可とする。
- ウ 電子メールまたはフロッピーで提出する場合は、プレインテキスト（txt）形式もしくはワープロ（Word）形式を原則とする。
- エ ワープロを使用の場合は、1 行を 23 字とし 45 行を 1 ページとして設定する。
- オ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。
- カ 原稿は次の順に記載する。
 - ① 標題、② 執筆者名、③ 本文、④ 注記、⑤ 引用文献、⑥ 参考文献、および⑦ 執筆者名の読みがな・職名
- キ 原稿の表記は、次に従うものとする。

① 漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。また、欧文原稿を除き句読点は「。」「、」を用いる。

② 数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣

的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。

③ 引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

a. 雑誌論文の場合

筆者名 “論文標題” 『雑誌名』 巻（号）、年月、ページ

b. 図書の中の一部引用の場合

著者名 “論文標題” 『書名』（図書の著編者名）出版地、出版者、出版年、ページ

c. 図書の場合

著者名 『書名』 出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す（印刷では、イタリック体活字になる）。

[例] Downs, Robert B. “How to start a library school.” *ALA Bulletin* 52 (6), 1995.6, pp.32-48.

e. インターネット上の文献

著者名 “文献標題” [参照年月日] (URL)

[例] 永沼博道 “21 世紀の大学図書館に向けて—伝統と現代化の相克” [参照 2003.1.20]
(URL http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/forum/2002_vol7/2002_01.pdf)

ク 図・表は、図 1、図 2、表 1、表 2、fig. 1 のように記す。図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するとき、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図 1、図 2、表 1、表 2 のように番号を鉛筆書きのこと。

ケ 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

(7) 掲載した著作物の電子化と公開許諾について

本誌に掲載した著作物の著作権は執筆者に帰属するが、次の事項について執筆者はあらかじめ了解するものとする。

- ア 関西大学図書館ウェブサイトにて公開されること
- イ 国立国会図書館が行う電子メディアに収録されること

以 上

〈平成 21 年 12 月 1 日改正〉

編集後記

本学の図書館では平成24年10月から館内に無線LANを設置しました。スマートフォン、タブレット、ノートPCなどから無線LANに接続すれば、インターネットはもちろん、本学で契約している電子資料に高速でアクセスできます。また、無線LANの開始と同時に館内のコンセントを電子機器利用に供しましたので、使いなれた電子機器で電子ジャーナルや電子ブックを存分に閲覧することができます。また、平成25年1月より本学でも「学認（学術認証フェデレーション）」の認証連携サービスを開始しました。「学認」を使うことで、これに対応したデータベース、電子ジャーナル等がVPN接続なしで学外から使えるようになります。現時点ではCiNiiのみの対応ですが、順次サービスを拡大していく予定です。

さて、本図書館フォーラムもインターネット配信のみになってから、3号目を数えますが、いかがでしょうか。筆者は場所を取らない電子書籍のファンであり、読みたい本があれば、まずは電子版を探すことから始めるほどです。しかし、紙の方が優れていると感じることも多々あります。情報としての価値は電子も紙も同じですが、存在感というか臨場感のようなものが紙と比べて電子には少ないような気がします。そのため、紙で読む方がよりダイレクトに情報が伝わってくると思うのです。そうであれば、本図書館フォーラムも単なる紙媒体の置き換えというのではなく、電子ならではの強みを活かした情報発信や表現方法を探っていかなければならないのかもしれないかもしれません。

(佃)

図書館フォーラム編集担当

佃 彦志・新谷大二郎・嶋田有理香

関西大学 図書館フォーラム 第17号 (2012)

平成25年3月31日発行

編集・発行 関西大学図書館
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-1157
<http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/>

制作 (株)遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325
